

平成 26 年度
足立区桑袋ビオトープ公園解説活動報告書

(株) 自然教育研究センター

目 次

I. 平成 26 年度の活動

長期目標	1
中期目標	2
1) 平成 26 年度の重点的な取り組み	3
2) 来館者数と対応者数の動向	4
①来館者数と対応者数の推移	4
3) インタープリテーション業務	6
①インタープリテーションの方針	6
②具体的なインタープリテーション活動	6
③インフォメーション、レンジャートーク	7
④展示物の管理	8
⑤教材開発（ワークシート、スライドなど）	11
⑥自然のあそび屋台、その他プログラム、導入型及び発展型プログラム	12
⑦特別企画展示「巨大なビオトープ！？綾瀬川」開催（7/23～8/31）	25
⑧団体対応	26
4) 環境管理業務	30
①ビオトープの基本概念	30
②当公園における環境管理の考え方	30
③実際の活動	32
5) 区民協働型運営の展開	36
①区民協働型運営の概要	36
②公園管理ボランティアの活動とその成果	36
③桑袋ビオトープ公園ジュニアレンジャー	39
④野外解説ボランティアの活動とその成果	41
⑤ビオトープ公園サポーター制度	43
⑥提案型ボランティア制度	43
⑦飛び込み型環境管理ボランティア	44
6) 広報活動および情報収集	45
①新聞・雑誌・TV・HPなどメディアへの掲載	45
②ホームページ	47
③園外でのPR活動	47
④区庁舎アトリウムでのポスター掲示	48
⑤印刷物による情報発信（ニュースレター、ポスター、チラシ）	49
⑥地域、区内関連施設との連携事業	50
⑦来館者モニタリング	51

長期目標

「桑袋ビオトープ公園を拠点とした持続可能な地域づくり」

公園の生物多様性について、区民が主体性をもって学び守る公園にします。そのことを通じて、公園内だけではなく、その地域全体が、自然と共生する持続可能な環境になることを目指します。

① 区民が育てる公園、公園と育つ地域と人

ビオトープ公園で育った公園ボランティアや子どもなどが、さまざまな地域の緑地保全活動の担い手になっています。

② 子どもから高齢者までの学びと充実、安らぎの場

公園内では、地域住民の目が行き届き、子どもから高齢者までの誰もが安心して、遊び、学ぶことができます。

③ 足立の生態系を守る情報拠点

地域の生物多様性保全に関わるノウハウや情報が領域を超えて集積・発信されています。

④ 全国区で有名な公園

公園での取り組みが広域で評価されて、ビオトープ公園が足立区民の誇りになっています。

中期目標

「多様な区民協働形態で実現する 積極的に活用される都市型ビオトープの管理運営」

長期目標を実現するために、各業務に3年をめどとした中期的な目標を立てて遂行していきます。現在の中期目標は平成25年度に設定し、目標年度を平成27年度に定めます。

① いつでも自然の魅力を体験できる集客力のある自然体験の場づくり

魅力的な自然体験プログラムを数多く実施することで、区民が当公園に足を運ぶきっかけにします。イベントなどで自然に触れ、地域の自然を守りたいと感じてもらえる機会を多く創出します。

② 都市型ビオトープの先駆的管理方法の検討と推進

ビオトープの管理を体験できるプログラムを多く用意し、都市の中でのビオトープ管理の必要性を区民に伝えます。また、新しく取り組む環境管理の手法も区民との協働で進めます。

③ 次世代にまでつなげる区民協働運営と、地域関連施設・団体との連携の強化

対象年齢、内容、頻度などが異なる様々な区民協働活動を用意することで、気軽に参加したい人から、しっかり公園に関わりたい人まで、多くの区民が関わることのできる仕組みを作ります。

④ 新たな広報手段の開拓と公園の魅力を効率的に伝える広報

イベント情報や自然の見所情報など、来園のきっかけとなるような情報が区民に効率的に届くように、これまでの広報手段だけでなく、新しい広報媒体も積極的に使いながら広報活動を行います。

⑤ 教育訓練の徹底によるリスクマネジメントの実践

様々な区民が公園に関わるようになったときに、安心して園内での活動が行えるように、日常的なリスクマネジメントと解説員やボランティアへの安全教育を行います。

1) 平成 26 年度の重点的な取り組み

① 区民協働型運営の多様化

これまで桑袋ビオトープ公園では、公園管理ボランティアや桑袋ビオトープ公園ジュニアレンジャー（以下ビオレンジャー）、提案型ボランティア活動など、様々な区民協働型運営を実施してきました。しかし、自然環境に対する区民の意識の高まりを受けとめる場としては、その役割を十分果たしているとは言い難い状況でした。

26 年度は、より多様な区民協働型運営を実現するため、既存の区民協働型運営の拡張と、新規区民協働型事業の立ち上げを行います。

既存の事業の拡張として、ビオレンジャーの実施プログラムを増加させると共に、達人レンジャー活動内でため池のかいぼりに参加するなどの事業展開を行います。また、新規事業として、自然のあそび屋台の運営を行う、「野外解説ボランティア」を開始します。

② 沈水植物の定着を目指した複合的取り組みの検討

開園当初のため池には、スターティングプランツとして沈水植物が植栽されましたが、ため池の水質や生物による捕食圧などにより、数年で消滅してしまいました。沈水植物は水生生物の産卵場所や隠れ場所にもなるため、定着することで水辺の生態系が豊かになることが期待できます。

26 年度は、沈水植物をため池に定着させることを目標とした取り組みの検討と実施をすすめていきます。

具体的には、ため池の水質を沈水植物が定着しうる状態にするための水質改善の取り組みや、肉食在来魚による外来種駆除の是非の検討を行います。

2) 来館者数と対応者数の動向

① 来館者数と対応者数の推移

今年度の延べ来館者数は28,744人でした(表-1)。弊社が目標としていた34,000人/年に対しては約85%の達成率で、目標を下回る来館者数となりました。

前年度と比較すると、特に6月と9月に大幅な減少が見られました(表-1、図-1)。6月については天候の影響が考えられます。来館者数の比較的多い土曜日・日曜日に悪天候が重なることが多く、来館者数に影響したと考えられます。9月は都内でのデング熱発生の影響と考えられます。デング熱感染防止の観点から野外でのプログラムや活動を中止した時期であり、来館者数減少につながったと考えられます。

いずれも、今後も発生しうる事態であり、屋内で実施可能な魅力あるプログラムの開発などの対策を行っていきたくと考えています。

表-1 来館者数および対応者数の月別推移

平成26年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	大人 1066	1793	1275	1289	1282	752	789	1308	561	578	672	972	
	子ども 1303	1906	1646	1890	1678	889	1258	2393	587	724	887	1246	
	計 2369	3699	2921	3179	2960	1641	2047	3701	1148	1302	1559	2218	28744
対応者数	大人 955	1601	1068	1078	1018	633	673	1093	471	442	561	880	
	子ども 1292	1845	1335	1813	1655	1282	1207	2227	520	712	810	1360	
	計 2247	3446	2403	2891	2673	1915	1880	3320	991	1154	1371	2240	26531

平成25年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	大人 545	1521	2399	1363	1037	1335	770	1235	594	542	474	637	
	子ども 1141	2106	3958	2663	1722	2457	1589	2575	1100	1119	1100	1165	
	計 1686	3627	6357	4026	2759	3792	2359	3810	1694	1661	1574	1802	35147
対応者数	大人 617	1360	1964	1006	838	987	613	848	442	487	360	619	
	子ども 1225	1899	2972	1910	1685	1952	1229	1791	1077	899	846	1385	
	計 1842	3259	4936	2916	2523	2939	1842	2639	1519	1386	1206	2004	29011

平成24年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	大人 1011	1109	1767	1293	1081	997	1239	830	258	341	367	713	
	子ども 1632	2097	3168	2860	2452	2186	2211	2060	518	644	881	1080	
	計 2643	3206	4935	4153	3533	3183	3450	2890	776	985	1248	1793	32795
対応者数	大人 814	965	1601	1200	974	879	1180	798	238	395	327	763	
	子ども 1718	2070	2770	2370	2589	1883	2117	1861	691	918	847	1185	
	計 2532	3035	4371	3570	3563	2762	3297	2659	929	1313	1174	1948	31153

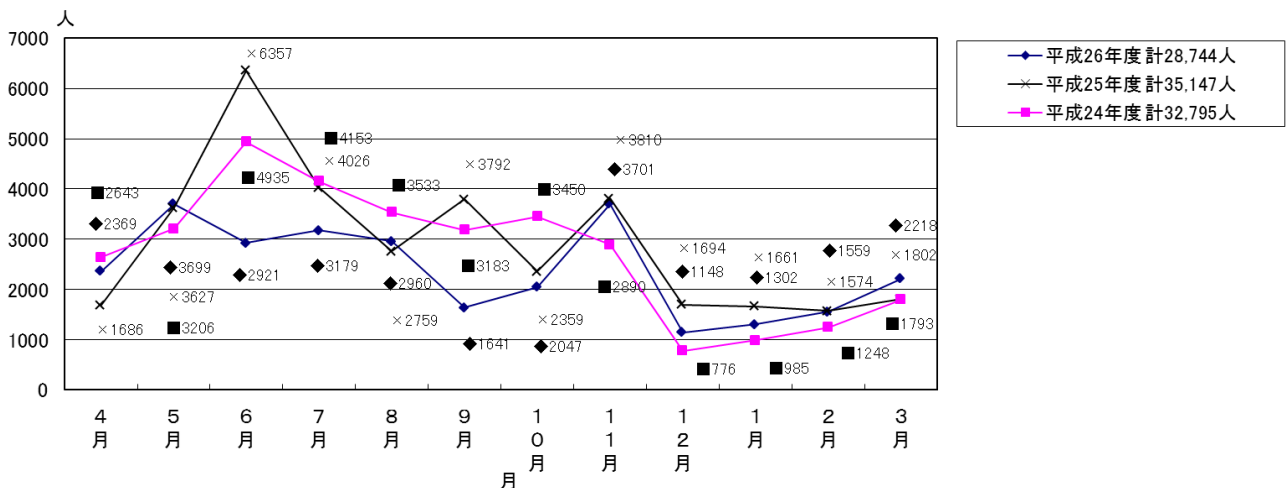


図-1 来館者数の月別推移 経年変化グラフ

表－２ 対応者数の詳細

月	対応者数			インフォメーション			レンジアートーク			プログラム				団体利用				区民協働型事業		
	大人	子ども	合計	大人	子ども	合計	大人	子ども	合計	回数	大人	子ども	合計	回数	大人	子ども	合計	回数	大人	合計
4	955	1292	2247	104	126	230	622	624	1246	132	117	525	642	4	74	17	91	14	38	38
5	1601	1845	3446	162	172	334	740	645	1385	98	277	650	927	16	381	378	759	9	41	41
6	1068	1335	2403	73	87	160	386	349	735	83	183	472	655	8	381	427	808	9	45	45
7	1078	1813	2891	125	193	318	604	759	1363	127	277	799	1076	7	31	62	93	10	41	41
8	1018	1655	2673	134	197	331	545	714	1259	148	268	644	912	6	42	100	142	8	29	29
9	633	1282	1915	71	97	168	377	423	800	87	115	603	718	9	48	159	207	9	22	22
10	673	1207	1880	71	78	149	452	438	890	81	102	530	632	6	17	161	178	8	31	31
11	1093	2227	3320	100	156	256	502	616	1118	96	124	522	646	16	333	933	1266	32	34	34
12	471	520	991	38	51	89	307	216	523	57	63	171	234	8	33	82	115	9	30	30
1	442	712	1154	61	105	166	255	274	529	81	48	195	243	8	42	138	180	11	36	36
2	561	810	1371	103	113	216	355	325	680	83	42	251	293	4	20	121	141	11	41	41
3	880	1360	2240	83	116	199	497	557	1054	144	81	517	598	9	179	170	349	13	40	40
合計	10473	16058	26531	1125	1491	2616	5642	5940	11582	1217	1697	5879	7576	101	1581	2748	4329	143	428	428
平成25年度	10141	18870	29011	1106	1532	2638	4626	6176	10802	1166	1798	6923	8721	124	2363	4232	6595	75	248	248
平成24年度	10134	21019	31153	1693	2607	4300	4160	7117	11277	1202	1735	7159	8894	129	2256	4136	6392	76	290	290

3) インタープリテーション業務

① インタープリテーションの方針

当公園でのインタープリテーション（自然解説）は、「ねらい」を明確にした上で、来館者の関心に訴えかける方法（プログラム）が用意される必要があります。そしてプログラムは断片的にならないようにし、環境教育の全体像における位置づけ（ポジショニング）が意識されなければなりません。

当公園は、近隣住民による日常的な利用も多くあり、自然環境や生き物について関心の度合いも様々で、意識レベルに応じたプログラムが求められます。また小学校等の校外学習などによる団体向けの対応も求められます。インタープリテーション（解説）業務を中心とした桑袋ビオトープ公園での環境教育活動は図-2のようになり、それに応じて以下のような具体的なインタープリテーションを用意しています。

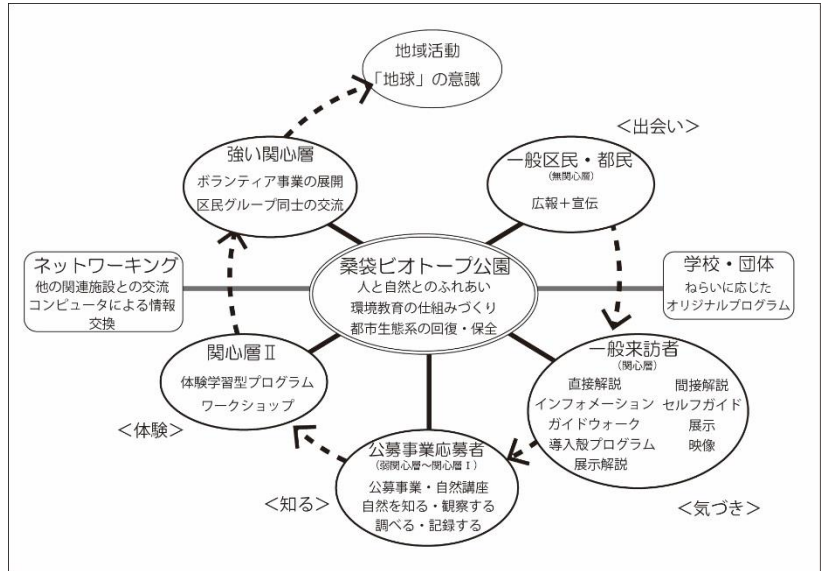


図-2 当公園における環境教育の展開

② 具体的なインタープリテーション活動

当公園のインタープリテーションには直接的解説と間接的解説があります。前者は解説員が直接対応することで効果的に公園の「おもい」を伝えることができます。後者は直接的解説と比べると効果は低いものの、多くの人に対応できること、時間を限定せずに来館者が利用できるという利点があります。

直接的なインタープリテーション

- ・ インフォメーション
- ・ レンジャートーク
- ・ プログラム（導入型、発展型、その他のプログラムなど）
- ・ 団体利用
- ・ 区民協働型事業（ボランティア養成講座、ジオレンジャーなど）

間接的なインタープリテーション

- ・ 展示（館内、館外、特別企画展示）
- ・ 図書コーナー
- ・ 教材開発（ワークシート、スライドなど）
- ・ 広報活動（ニュースレター、ポスター、チラシ、HP、メディアへの情報発信）

③ インフォメーション、レンジャートーク

「インフォメーション」 来館者のニーズに応じて、施設やイベントの案内を行う。単なる情報提供に終わらず、自然の楽しみ方や自然への気づきにつながるように心がける。

「レンジャートーク」 来館者の関心に応じて、展示や季節の自然などを通じて解説を行う。実際に野外でも体験したいという気持ちにつながるように心がける。

当公園での来館者へのインフォメーション、レンジャートークは、来館者のニーズを把握するとともに、インタープリテーション活動をより効果的に実践するために大切な業務です。実施状況を表-3及び表-4に示します。

インフォメーションは、年間で延べ2,600人以上に行いました。イベント情報の他、ボランティア活動、団体利用などを中心に案内をしました。また例年人気の高いザリガニ釣りも、年間を通して問い合わせがあり、受付方法や出現する時期などを案内する機会が多くありました。

レンジャートークは年間で延べ1万人以上に行うことができました。インフォメーションボードを定期的に更新したことで、園内の自然情報に興味をもつ来館者が増え、それらの解説を行う機会が多くありました。

上記の結果から身近な生き物への関心は子どもから大人まで高いことが読み取れます。ビオトープや生物多様性などの言葉自体はまだまだなじみが薄く、難解なテーマと捉えられがちですが、直接解説するよりも、身近な親しみやすい生き物と触れ合う体験を通すことで、より理解が深まると考えます。今後も多くの方に興味・関心を持っていただくために様々な体験の提供が必要だと考えます。

表-3 インフォメーション、レンジャートークの実施状況

月	インフォメーション			レンジャートーク		
	大人	子ども	合計	大人	子ども	合計
4	104	126	230	622	624	1246
5	162	172	334	740	645	1385
6	73	87	160	386	349	735
7	125	193	318	604	759	1363
8	134	197	331	545	714	1259
9	71	97	168	377	423	800
10	71	78	149	452	438	890
11	100	156	256	502	616	1118
12	38	51	89	307	216	523
1	61	105	166	255	274	529
2	103	113	216	355	325	680
3	83	116	199	497	557	1054
合計	1125	1491	2616	5642	5940	11582
平成25年度	1106	1532	2638	4626	6176	10802

表-4 平成26年度の主なレンジャートーク一覧

4月	5月	6月	7月	8月	9月
・ツクシについて ・タンボポについて ・アオダイショウについて ・園内で見られる野草	・シジュウカラの飛来について ・浄化施設について ・食物連鎖について ・カキツバタの開花	・カルガモの営巣について ・オオガハスの開花 ・アメリカザリガニの生態 ・モツゴについて	・オオガハスの開花 ・バツタ類の食性について ・チョウトンボの飛来 ・ビオトープの管理について	・セミの羽化について ・ウシガエルについて ・綾瀬川の水質 ・綾瀬川の生き物	・カワセミの飛来 ・ハスの花托について ・園内で見られるカマキリ ・秋の鳴く虫について
10月	11月	12月	1月	2月	3月
・ハス田の管理 ・ニホンカナヘビについて ・ドングリの見分け方 ・アメリカザリガニの冬眠	・冬鳥の飛来 ・猛禽類について ・カマキリの卵について ・バツタ類の生態	・クビキリギスについて ・キジバトの巣について ・ため池の水質 ・冬越しする生き物	・メジロの飛来 ・梅の開花状況 ・自然素材を使ったクラフト ・モズのはやにえ	・オナモミについて ・ヘドロの管理について ・園内で見られる冬鳥 ・アカメヤナギの開花	・シメの飛来 ・アズマヒキガエルについて ・春に見られる野草 ・ドロバチについて

④ 展示物の管理

(1) 館内展示

展示はインタープリテーションとして以下の目標のもとに作成しました。

①情報の発信と受信の機能を持つ展示

野外に出る前の必要な情報、自然と親しむための工夫を提供するとともに、利用者からの情報も展示に活用します。

②きっかけを与える展示

知識のみを伝えるだけではなく、自然の見方やとらえ方、自然との接し方など、気づき、きっかけを提供することを目指します。

③野外へと誘導する展示

野外での自然体験に誘導するための導入、あるいはまとめとして位置づけます。つまり、インタープリターによるガイドウォーク、野外展示や野外解説板と連携しやすい展示とします。

④清流館内へと誘導する展示

来園者に、当公園がどういった公園なのか、どのような活動ができるのかなどの利用方法を知っていただくために、館内に足を運んでもらうことを目的とします。

来館者の多くはザリガニ釣りを目的に訪れますが、ザリガニだけではなく、他にも公園内の生き物や自然の魅力を伝えられるように、新規展示の作成を行いました。中でも来館者の多くの方が生体展示に興味を示し、生体の解説を通して園内の環境や生き物同士のつながりを解説する機会が多くありました。

当公園の来館者の特徴としてリピーターが多いこともあり、今後も新規展示を作成し、年間を通して頻繁に展示の入れ替えをすることで展示物のマンネリ化を防ぐとともに、全体として統一感のある展示空間を構成していくことが必要だと考えています。

新規展示

常設「ビオトープ公園の生き物紹介」

特別企画展示の終了と合わせて9月2日より常設展示を設置しました。草地・林地・水辺といった園内の環境ごとに、そこで見られる生き物をパネルや生体で展示しました。また、それぞれの環境で行っている生き物呼び込むための管理についてもパネルで紹介しました。特別企画展示に比べると生体展示の数は少ないのですが、園内の代表的な生き物を紹介でき、来園者の方にも楽しんでもらっている印象を受けました。

生体展示

園内の環境でみられる生き物の生体展示を行いました。

草地水槽では季節に見られるバッタなどの昆虫、林地の水槽ではカナヘビ等の爬虫類、水辺の水槽ではモツゴ等の魚類を適宜更新しながら飼育し、展示しました。今年度は新たに園内で増えているヒメダカと日本在来種のミナミメダカの比較展示も行い、現在のビオトープ公園のため池の状況と入ってきてほしい生き物についてを来館者に解説するきっかけとなりました。

季節展示「虫の冬越し」

冬越しする虫についての展示を開始しました。冬越しする虫とそれらの虫が利用する環境を紹介するパネル、園内で見つけた冬越しする虫のシールを貼ることができる冬越しマップのパネルがあります。展示を見た後に園内で虫を探してもらくと、冬の時期でも意外と虫がいるんだと驚く声が聞かれました。冬の時期でも生き物がいることを伝えられるきっかけとなりました。

インフォメーション「落ち葉カード」

日常的に実施しているプログラムの紹介コーナーにおいて、秋ならではの落ち葉を使用したプログラム「落ち葉カード」の紹介展示を作成しました。展示を見た方からやってみたいという声も聞かれ、落ち葉の色や形など園内の自然に親しむきっかけとなっている様子が伺えました。

ハンズオン「ブラックボックス」

箱の中に入っているものを、手探りだけで当ててもらうものです。以前は箱のふたを開けても中身が見えるだけでしたが、中身に関する簡単な紹介カードをつけられるように改善しました。ブラックボックスは来館者に人気の展示で解説機会も多く、今回の改善で、より来館者に伝わりやすい展示となりました。

図書コーナー

当公園の図書コーナーでは以下のテーマを中心として図書を収蔵しています。

- ・ 足立区内の河川（特に、綾瀬川、伝右川、毛長川）、河川の浄化
- ・ ビオトープ、自然環境復元
- ・ 外来種（帰化種を含める）
- ・ 植物、昆虫、魚類などの生き物

今年度は来館者が生き物について自分で調べやすいように、野鳥や植物等の図鑑を増やしました。また、図書の収蔵数が増えてきたことで本棚に出せる本の量が制限されてきたため、季節ごとに配架する本を変更しました。

(2) 野外展示

野外展示については、以下のような機能を考え、設置しました。

①自然解説に関する展示

- ・自然の見方、楽しみ方の紹介
- ・身近な自然の利用方法や保全方法の提案

②施設の利用に関する展示

- ・あやせ川清流館や浄化施設、トイレなど各施設の周知と誘導
- ・利用方法の周知（禁止事項やルールなど）

来園者の方への様々な情報提供の手段の一つとして、野外展示を設置しました。これにより、区民と共に育てていく公園であること、ボランティア活動だけではなくイベントなど様々な形で公園の自然管理に関われることを来園者に伝えられる効果も見込めます。

また野外展示は公園を楽しんでもらうためのきっかけや、あやせ川清流館までの誘導として有効に活用できるものですが、展示物ばかりになると景観が損なわれるため、設置する際は展示物全体の統一感を出すようにしました。

手のひらのビオトープ

平成 24 年度の特別展示として作成したもので、常設展示の一部として展示を続けました。今年度は新たに、フェネルの鉢を設置し、キアゲハの利用を展示としてみせる試みを行いました。本展示は、あやせ川清流館の入り口にあり来館者の目につきやすく、多くの方にビオトープネットワークという難しいテーマを身近なものとして感じてもらえるきっかけとなりました。

手のひらのビオトープ解説パネル

経年劣化による汚れが目立つようになったパネルを新規で印刷し、長期間の屋外掲示に耐えられるように額にいれて再設置しました。立ち止まって見ていかれる方も多く、きれいな状態で見ていただくことができるようになり、来園者の方からも見やすくなったという声が聞かれました。

シジュウカラの巣箱

園内に 4 か所設置しているシジュウカラの巣箱ですが、1 年が経過し巣箱の利用状況を確認するとともに、巣箱内の掃除を行い、壊れているものは修理しました。今年度は設置した 4 か所のうち 1 か所でシジュウカラが利用した形跡が見られました。巣箱の利用状況はビオレンジャーの活動でも調べており、解説活動につなげやすい展示の一つとなりました。

ビオレンジャー クイズボックス

今年度新たに名前を変更して実施した達人レンジャー活動内でクイズを作成し、野外に設置しました。年 4 回、その季節に合わせた問題を考え、随時更新しました。来園者の中でも子どもの利用が多くみられ、館内へ答えを聞きにくることもありました。

樹名板

提案型ボランティア「この木この花なあに」の活動で作成した樹名板が老朽化していたため、新たに設置しなおしました。樹木に下げられた竹筒を持ち上げるとその樹木の名前が出てくる仕掛けとなっています。団体対応や自然のあそび屋台など、様々な活動で利用する機会が多く、来園者の方にも楽しんでいただける展示となりました。

⑤ 教材開発（ワークシート、スライドなど）

当公園で展開するプログラムにおいて、環境教育の効果を引き出すために、地域固有のメッセージをもった教材やテキストの開発が必要となります。また、身近な自然や生き物を考えるための標本や模型、映像ソフトなどは来園者へのインパクトも大きく、解説効果を高められると考えています。

(1) ワークシート、セルフガイド

ワークシートはプログラムや窓口対応の中で随時作成し、利用してきました。来館者のニーズや対象に応じて解説員が適切なワークシートを判断し提供しています。

セルフガイドは季節に応じたものを、常時パンフレットラックに並べていますが、持ち帰る来館者の姿も多く見られました。

(2) スライド

スライドは主に団体対応や導入型、発展型プログラムを行うなかで随時作成し、利用してきました。団体対応では、初めて公園に来園する方も多いため、主に公園の概要や浄化施設の説明、また園内で見られる生き物などの紹介をすることが多くなります。

開園当初に比べて樹木が生長するなど、自然の様子も変化してきました。そうした環境の経年変化をスライドで紹介すると、「こんなに変わったんだ」という驚きの声も聞かれました。

[今年度作成した主なスライド] 生物多様性・ビオトープをテーマにしたスライド

- ・プログラム：家族で春のビオトープお泊り会、自然素材で鳥の巣バスケットを作ろう、ガマの葉でティッシュケースを作ろう、ため池ボートクルーズ、泥んこハス掘り体験、身近な植物でハンカチを染めよう、鳥の足型マグネット作りなど
- ・団体対応：各小学校、大学の対応など
- ・未就学児を対象：「おさかなクイズ」「ザリガニクイズ」「カモフラージュゲーム」など

(3) レンタルグッズ

来園者が各々でも自然体験を楽しめるように、以下の物品の貸し出しを行いました。ショウリョウバッタ調査（虫かご・ストップウォッチ・帽子）、ザリガニ調べ（釣り竿・バケツ・帽子）、シジュウカラの巣箱調べ（双眼鏡・帽子）、飼育生物のえさ探し（虫かご・帽子）。

⑥ 自然のあそび屋台、その他のプログラム、導入型及び発展型プログラム、

自然のあそび屋台	その日の自然素材でできる初心者向けの小規模な自然体験プログラムを屋外で野外解説ボランティアとともに実施。(当日募集)
その他のプログラム	イベントのない日の来園者の要望に応じて、不定期の個人対応プログラムを実施。(館内で随時受け付け)
導入型プログラム	自然の中で遊びたい、自然を体験したいという方に、気軽に参加できるプログラムを実施。(当日募集)
発展型プログラム	自然に関心があって、もっと深く知りたい、じっくり観察したいという方に、より深い内容のプログラムを実施。(事前募集)

今年度は、自然のあそび屋台を 33 回、その他のプログラムを 1,154 回、導入型プログラムを 18 回、発展型プログラムを 10 回実施しました(表-5)。

プログラム実施中や実施後に得た感想、アンケート結果(図-3~5、表-9~10)から、参加された方は十分な満足と自然やビオトープへの理解を深められた様子が伺えます。プログラムの参加状況の特徴を見ると、導入型の参加率が 76%と昨年度(86%)よりも減少しました。発展型プログラムの応募率は 125%で昨年度(136%)より少ないものの、定員を上回る方々に応募していただきました。

今年度は導入型・発展型プログラム共に参加率が昨年度よりも減少しました。天候不良や都内の公園で発症したデング熱の恐れによる来園者の減少が原因と考えられます。

表-5 平成 26 年度のプログラムの実施回数と参加状況

	回数	参加者数			平均参加者数	定員	参加率
		大人	子ども	計			
自然のあそび屋台	33	133	315	448	13.6	各回20人	68%
導入型プログラム	18	85	187	272	15.1	各回20人	76%
発展型プログラム	10	85	87	172	17.2	各回20~50人	73%
その他のプログラム	1156	1394	5290	6684	5.8	なし	-
合計	1217	1697	5879	7576	-	-	-

(1) 自然のあそび屋台

前年度より実施している事業で、午後 2 時から 30 分間屋外に出展した屋台で季節の自然を利用した随時対応の自然体験プログラム、レンジャートークやインフォメーションを行いました。

前年度との大きな変更点として、これまで解説員が実施していた屋台での自然体験プログラムを、今年度から新規で立ち上げた「野外解説ボランティア」によって実施しました。全 33 回のプログラムは、原則全て違うテーマで実施をしました。屋台の出展場所として、来園者の目に付きやすい観察デッキ周辺で行っていたため、来園者が「何かやっている」と気づきやすく、ザリガニ釣りなどの違う目的で来園した利用者にも声をかけて参加に結びつけることができました。

次年度も今年度同様に、野外解説ボランティアによる自然のあそび屋台の運営を行う予定です。

表－6 自然のあそび屋台参加状況

回数	日時	大人	子ども	計
1	4月6日	3	6	9
2	4月13日	3	10	13
3	4月27日	6	16	22
4	4月29日	2	3	5
5	5月5日	4	6	10
6	5月18日	4	22	26
7	6月1日	4	16	20
8	6月8日	6	6	12
9	7月13日	15	25	40
10	7月21日	12	15	27
11	8月3日	4	9	13
12	8月24日	18	24	42
13	9月7日	0	3	3
14	9月15日	3	11	14
15	9月23日	2	14	16
16	9月28日	0	5	5
17	10月1日	1	4	5
18	10月5日	0	3	3
19	10月13日	0	8	8
20	10月26日	8	12	20
21	11月2日	4	10	14
22	11月3日	5	7	12
23	11月24日	4	11	15
24	11月30日	0	4	4
25	12月7日	1	7	8
26	12月14日	0	2	2
27	12月23日	2	8	10
28	1月12日	0	1	1
29	1月18日	1	9	10
30	2月11日	9	8	17
31	3月1日	0	3	3
32	3月15日	3	13	16
33	3月29日	9	14	23
		133	315	448
平成25年度 自然のあそび屋台実施実績				
実施回数		大人	子ども	計
36回		132	413	545

(2) その他のプログラム

その他のプログラムは、導入型・発展型プログラムと違い、当日に来園者の興味や関心から発展して実施するプログラムです。来園者の年齢や関心に合わせて適切なプログラムを実施でき、少人数で実施するため環境教育的効果が高いと思われます。また、普段は見られないその時その場でしか起こりえない自然現象を逃さずに捉えられることがフィールドをもつ当公園の魅力であり、リピーターにつながると考えます。

その他のプログラムには前年度から開始した「自然のあそび屋台」が含まれ、導入型・発展型プログラムを行わないすべての日曜日及び祝日の、年間 33 回実施しました。自然のあそび屋台についての詳細は「(1) 自然のあそび屋台 (P.13)」に記載します。

また特別展示開催に伴って生体展示を充実させたことで、飼育生物のエサ捕りや給餌体験プログラムを行う機会が多くありました。カマキリやカエルなど身近に生息する生き物でも、餌を食べる瞬間を見る機会はあまりないため、子どもから大人まで夢中になって観察する様子が伺えました。

全体として実施回数は 1,000 回以上となり、昨年度を上回りました。今後はより幅広い年齢層に対しニーズに合わせたプログラムを実施すると共に、当公園ならではの体験を提供したいと考えます。

表ー7 その他のプログラム実施回数および参加状況

月	回数	参加者数			平均参加者数
		大人	子ども	計	
4月	127	98	478	576	4.5
5月	92	235	583	818	8.9
6月	78	146	426	572	7.3
7月	120	229	733	962	8.0
8月	144	241	592	833	5.8
9月	87	115	603	718	8.3
10月	79	88	506	594	7.5
11月	93	111	488	599	6.4
12月	55	39	162	201	3.7
1月	79	40	183	223	2.8
2月	79	29	203	232	2.9
3月	142	75	490	565	4.0
合計	1175	1446	5447	6893	5.9
25年度合計	1101	1205	6452	7657	6.9

表-8 その他のプログラム実施内容一覧

日付	4月	5月	7月	8月	9月	11月	1月	3月	
1日(水)	ザリガニ池へ 木の生き物の調べ ヒメワケの観察 クワガタの観察 水質の測定 ヒメワケの観察 ザリガニ池へ 木の生き物の調べ ヒメワケの観察 クワガタの観察 水質の測定	ザリガニ池へ 木の生き物の調べ ヒメワケの観察 クワガタの観察 水質の測定 ザリガニ池へ 木の生き物の調べ ヒメワケの観察 クワガタの観察 水質の測定	ザリガニ池へ 木の生き物の調べ ヒメワケの観察 クワガタの観察 水質の測定 ザリガニ池へ 木の生き物の調べ ヒメワケの観察 クワガタの観察 水質の測定	ザリガニ池へ 木の生き物の調べ ヒメワケの観察 クワガタの観察 水質の測定 ザリガニ池へ 木の生き物の調べ ヒメワケの観察 クワガタの観察 水質の測定	ザリガニ池へ 木の生き物の調べ ヒメワケの観察 クワガタの観察 水質の測定 ザリガニ池へ 木の生き物の調べ ヒメワケの観察 クワガタの観察 水質の測定	ザリガニ池へ 木の生き物の調べ ヒメワケの観察 クワガタの観察 水質の測定 ザリガニ池へ 木の生き物の調べ ヒメワケの観察 クワガタの観察 水質の測定	ザリガニ池へ 木の生き物の調べ ヒメワケの観察 クワガタの観察 水質の測定 ザリガニ池へ 木の生き物の調べ ヒメワケの観察 クワガタの観察 水質の測定	ザリガニ池へ 木の生き物の調べ ヒメワケの観察 クワガタの観察 水質の測定 ザリガニ池へ 木の生き物の調べ ヒメワケの観察 クワガタの観察 水質の測定	ザリガニ池へ 木の生き物の調べ ヒメワケの観察 クワガタの観察 水質の測定 ザリガニ池へ 木の生き物の調べ ヒメワケの観察 クワガタの観察 水質の測定

(3) 導入型プログラム

デング熱の影響により、前年度よりも参加者数・参加率ともに減少しました。一方、「はじめて」の参加者が36%と、前年度よりも増加し、「3回以上」の参加者も37%とほぼ同じ割合を示しました。新しい参加者を獲得しつつ、リピーターの参加者数が維持されていることが伺えます。

特に参加人数が多かったプログラムは、「水辺の生きもの大調査」(28人)「ザリガニマスターになろう」(24人)「どんぐりアートを作ろう」(20人)でした。

全体的な参加状況を見ると、当公園の自然環境を利用した生き物観察プログラムや、自然物を用いたクラフト体験などのプログラムへの参加率が高いことが読み取れます。当公園は交通の便があまり良くないため、特に遠方からの利用者には「桑袋ビオトープ公園でしか体験できない」内容が、プログラム参加のきっかけにつながると考えられます。今後も参加者のニーズをよく把握し、当公園ならではのプログラムを実施すると共に、子どもから大人まで楽しめるプログラムを実施していきたいと考えます。

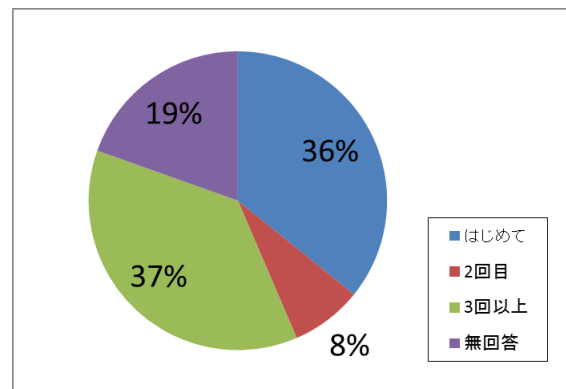


図-3 導入型プログラムのリピーター率

表-9 導入型プログラム参加状況

	実施日	プログラム名	参加者数			参加率(%)
			大人	子ども	計	
1	4月20日	春の色さがし	5	12	17	85%
2	5月4日	ビオトープ・オリンピック2014	4	6	10	50%
3	5月6日	水辺の生きもの大調査!	15	13	28	140%
4	5月11日	葉っぱで貼り絵	7	12	19	95%
5	6月22日	ザリガニマスターになろう	8	16	24	120%
6	7月6日	野草で七夕飾り作り	2	8	10	50%
7	7月20日	オオガハスとティータイム	7	6	13	65%
8	8月17日	水博士になろう!	2	13	15	75%
9	8月31日	バッタ大調査!	3	6	9	45%
-	9月21日	カマキリを探せ!	デング熱の影響により中止			
10	10月12日	においマスターになろう	0	8	8	40%
11	11月9日	落ち葉であそぼう	1	7	8	40%
12	11月23日	どんぐりアートを作ろう	5	15	20	100%
13	1月11日	開運!ハスの実でお守り作り	7	9	16	80%
14	2月1日	ビオトープ公園探検ゲーム	2	11	13	65%
15	2月15日	カモのパズル作り	4	11	15	75%
16	2月22日	野草のミニカゴ作りに挑戦	7	7	14	70%
17	3月8日	ドロバチハウスをつくろう	4	12	16	80%
18	3月22日	生きものモビールをつくってみよう	2	15	17	85%
計			85	187	272	76%
平成25年度合計(18回実施)			92	219	311	86%

導入型プログラムの事例紹介（一部）

「春の色さがし」 4月20日実施

色紙のフレームを使って、そのフレームの色をテーマにした色探しをしました。参加者は自分の選んだ色を一生懸命探し、植物などをよく観察する様子が伺えました。ペアになってもらい、自分の見つけた自然物を相手に紹介しあいました。コメツブツメクサの黄色い小さな花など、「こんなところにこんな色があるなんて」と参加者が驚く様子がみられました。

「水辺の生きもの大調査！」 5月6日実施

カゴ網による魚類調査と、簡易プランクトンネットによるプランクトン調査、金ザルによる底生生物調査の3つを通し、水辺に暮らす生き物の多様性とつながりに注目するプログラムを実施しました。カゴ網を引き上げた際の期待や、ルーペでプランクトンを観察した際の驚きなど、生き物による刺激に満ちた内容となりました。普段は意識することの少ない水辺の生き物に対し、参加者が興味を抱ききっかけとなったようでした。

「葉っぱで貼り絵」 5月11日実施

いろいろな色の野草の葉をちぎって紙に貼り、絵を描いてもらいました。最初に葉を探す練習をし、同じ種類の葉でも表と裏では色が違うことなどに気づいてもらいました。その後自分で集めた葉を使って、チョウやバッタの絵柄を完成させてもらいました。同じように見える緑でもよく見ると色に違いがあることを発見したり、ちぎるときの葉の手触りやにおいを楽しんだりしながら、夢中で取り組んでいました。

「ザリガニマスターになろう」 6月22日実施

身近な水生生物の代表であるアメリカザリガニを題材に、観察や実験を行いました。ザリガニについてスライドで紹介した後、罌を使ってザリガニを捕獲し、自分が観察するザリガニを手づかみで捕まえる体験をしました。その後館内で、餌の取り方や呼吸を観察する実験を行いました。実験の様子に驚く声が多く聞かれ、身近な生き物を観察する楽しさを伝えることができました。

「ドングリアートを作ろう」 11月23日実施

ドングリなどの園内の自然物を用いたクラフト体験を実施しました。参加者に園内でドングリを拾ってもらい、それらに加えてハンノキの実や小枝を、丸太の台にくっつけたり色を塗ったりして、自由に置物を作ってもらいました。大人から子どもまで夢中になっている様子が見られ、楽しみながら自然に親しむ機会となりました。

「開運！ハスの実でお守り作り」 1月11日実施

以前のイベントでハス田から回収しておいたオオガハスの実を使い、クラフト体験を実施しました。ハスの実とひもを使ったストラップ型のお守りと、ハスの花や花托を印刷したカードに新年の抱負を書いたお守りカードを作成してもらいました。参加者は種に穴を開けるのに苦戦しながらも、種を使ったクラフトを通して花だけではないハスの魅力を体験できた様子でした。

「ドロバチハウスをつくろう」 3月8日実施

ドロバチに巣として利用してもらえるように、竹筒を加工してドロバチハウスを作ってもらいました。まず、どのような生き物がドロバチハウスを利用するのかを説明しました。その後、あらかじめ縦に割っておいた竹筒にテープを貼りつけてもらいました。最後に作製したドロバチハウスを園内に設置しました。参加者からは、「ドロバチがたくさん使ってくれれば良いな」という声が聞かれました。

「生きものモビールをつくってみよう」 3月22日実施

生き物同士の「食べる・食べられる」という関係を使って、モビールを作りました。まずスライドを使用して園内で見られる生き物について紹介した後、生き物カードを「食べる・食べられる」の順に並べて、モビールの配置を決めてもらいました。最後に配置通りにヒモでカードをつなげて完成させました。クモがチョウを食べるなど、生き物同士の関係をしっかり考えながらモビール作りをしていた様子が印象的でした。

(4) 発展型プログラム

今年度、発展型プログラムは応募率、参加率共に昨年度と比較し減少しました（表－10）。要因として、イベント名だけでは何を実施するのかの内容の判断が難しいイベントがあったことが挙げられます。応募率、参加率共に100%を超えたものは「探検！ため池ボートクルーズ」「どろんこハス掘り体験」でした。なかでも「家族で春のビオトープお泊り会」「探検！ため池ボートクルーズ」「どろんこハス掘り体験」は応募率が200%以上と、プログラムとしての注目度の高さが伺えます。一方で、応募率が100%以上でもキャンセルが出たことにより、参加率が100%を下回るイベントも多くありました。

参加者の満足度（とてもよかった）は87%と昨年度（83%）よりも増加し、依然として高い値です（図－4）。リピーター率は47%と昨年度よりも減少し、新規参加者がリピーターを上回る結果となりました（図－5）。新規イベントの実施やマスコミによる情報発信により、新規参加者が増加したと考えられます。

プログラムの応募率、参加率が低いイベントに関して、今後はイベント名をわかりやすくすること、当日キャンセルがでないようイベント参加者に直前の連絡を行うことなどの対策が必要だと思われます。また、応募率が200パーセントを超え落選者が非常に多いイベントについては、イベント実施回数の見直しなどの対策の検討が必要です。

表－10 発展型プログラム応募状況および参加状況

	実施日	プログラム名	応募者数			応募率(%)	参加者数			定員	参加率(%)
			大人	子ども	計		大人	子ども	計		
1	5月24日～25日	家族で春のビオトープお泊り会	20	20	40	200%	8	8	16	20	80%
2	6月15日	自然素材で鳥の巣バスケットを作ろう	6	4	10	50%	6	4	10	20	50%
3	6月29日	ガマの葉でティッシュケースを作ろう	21	10	31	155%	13	4	17	20	85%
4	7月27日	探検！ため池ボートクルーズ	25	29	54	225%	12	12	24	24	100%
-	8月10日	夜のわくわく生きもの観察会	13	9	22	110%	荒天により中止			20	-
-	9月14日	ため池のかい掘り体験	25	32	57	114%	デング熱の影響により中止			50	-
5	10月19日	どろんこハス掘り体験	28	34	62	207%	14	16	30	30	100%
6	11月16日	身近な植物でハンカチを染めよう	9	14	23	115%	7	12	19	20	95%
7	12月20日	ビオトープ講座「ヘドロを出さない水辺の管理」	9	-	9	27%	9	0	9	33	27%
8	12月21日	手作りキャンドルナイト	21	20	41	137%	15	9	24	30	80%
9	1月25日	鳥の足型マグネット作り	1	4	5	25%	1	3	4	20	20%
10	2月7日～8日	ビオトープ公園冬のお泊り会	-	27	27	135%	-	19	19	20	95%
計			178	203	381	125%	85	87	172	307	73%
平成25年度合計(11回)			175	234	409	136%	88	120	208	260	80%

発展型プログラムの事例紹介（一部）

「ガマの葉でティッシュケースを作ろう」 6月29日実施

園内のため池やハス田などの水辺に繁茂する水生植物のガマの葉を使って工作を行いました。始めに館内でスライドを使い、「ガマ」という植物に関するクイズや、桑袋ビオトープ公園で行っている生き物の利用を考えたガマの管理、またガマを利用する生き物について解説しました。ガマの葉の根元等はトンボの羽化にも利用されることや、カルガモなどの隠れ場所にもなっていることを説明すると、「知らなかった」という声が聞かれました。続いて、ガマの刈取り体験を行いました。ティッシュケース作りでは、ガマを編む方法と、ガマを貼り付けていく方法を紹介し、自分の好みに合わせてやり方を選んで作ってもらいました。みなさん集中してティッシュケースづくりに取り組み、少しずつ出来上がっていく様子を楽しんでいました。

「探検！ため池ボートクルーズ」 7月27日実施

ため池にボートを浮かべ、水中や水際など、多様な水辺環境の観察を行いました。まず、清流館でスライドを使用してビオトープ公園について紹介し、今回は特に水辺環境について観察することを伝え、今回観察できるかもしれない生き物の紹介をしました。その後、一組ずつボートを持ち運び、ため池のスロープでボートの乗り方と注意事項の説明をしました。参加者はため池に張り巡らされたロープを手で伝いながらボートを動かしました。ため池内では3つのポイントに解説員を配置し、安全確保をするとともに、草むら、水際、水中それぞれでみられる生き物や見つけ方を解説しました。参加者たちはボートに乗りながらため池を観察する中で、多くのイトトンボや魚、アメンボ、またトンボのヤゴなどを発見した様子で、アンケートでも多くの生き物を観察できたとの声が出ていました。

「どろんこハス掘り体験」 10月19日実施

始めに、ハス掘りをしてハス田の開放水面を残すことで、その水面をトンボが産卵に利用することをスライドで紹介しました。その後ハス田へ移動し、ハス掘り体験を行いました。泥の中に入るのは初めてという参加者も多く、最初は戸惑いながら泥の中に手を入れてレンコンを探していましたが、次第に集中する様子がみられました。当イベントは公園管理ボランティアの協力のうで行ったイベントで、ボランティアの皆さんの力強い活躍ぶりをみることができました。オオガハスのレンコンは食用ではないということに驚く声や、泥にまみれながらも親子で一緒にレンコンを掘る体験ができてよかったという声が聞かれました。

「身近な植物でハンカチを染めよう」 11月16日実施

園内に生えているセイタカアワダチソウを使用して染色体験を行いました。ハンカチに豆乳で模様をつけ、セイタカアワダチソウからつくった染液で煮込みました。染液が十分に染みこんだハンカチをそれぞれ媒染剤に漬け込みました。媒染剤として石灰とミョウバンを用意し、参加者に選択してもらいました。媒染をするとハンカチの色が変化し、参加者は驚いた様子でした。外来種駆除の一環としてセイタカアワダチソウの刈取りを行い、その副産物を利用して染色をしたこと、染色以外にも副産物にはいくつかの利用方法があること、外来種問題について考えてみて欲しいということを伝えました。参加者からは「セイタカアワダチソウは良く見るけれども外来種だということ始めて知った」などという声が聞かれ、外来種問題について考えるきっかけとなるイベントとなりました。

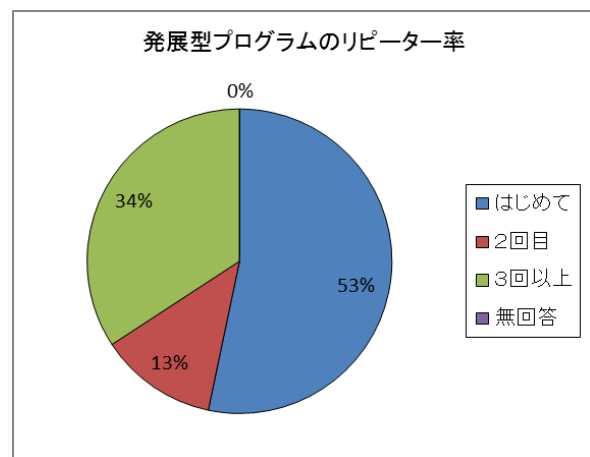
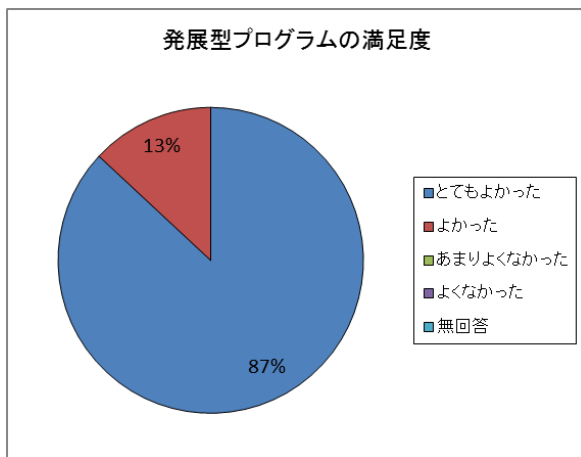
「手作りキャンドルナイト」 12月21日実施

廃油からキャンドルを作るイベントはこれまでも実施したことがありましたが、今回はそれに加えてキャンドルの明かりを楽しむキャンドルナイトを含めて実施しました。更に、地域のオーケストラ団体に協力していただき、楽器の生演奏も楽しみました。始めに、廃油を材料にしたキャンドル作りを行いました。その後、廃油を含む家庭からの生活排水が川の水を汚す原因になっていることを伝えました。キャンドルに火を点け部屋全体を消灯すると、キャンドルの明かりの幻想的な雰囲気、参加者からは感嘆の声が聞かれました。自分が作ったキャンドルを灯していることで、感動も大きかったのだと思います。キャンドルの明りだけの状態で、オーケストラの生演奏を行っていただきました。曲目はクリスマスソングを中心に、2014年に流行した曲目も織り交ぜて演奏してくれたため、子どもも飽きずに最後まで聞いていました。

「ビオトープ公園冬のお泊り会」 2月7日～8日実施

子どもだけで公園に宿泊し、冬の公園の自然を体験するイベントを実施しました。1日目は雨を静かに感じる雨の夜体験や生き物観察会などを実施しました。2日目は朝日の観察や、お気に入りの風景を見つけて撮影する「思い出写真」を実施しました。最後のふりかえりでは1人1人楽しかった事を発表してもらいました。いつもはあまり目を向けない身近な自然や時間帯にも素敵なものがあるので、今回の体験を機にそれらを楽しむ気持ちを持ってほしいということを伝え、お泊り会を終了しました。子どもだけでの宿泊、普段は触れることのない時間帯の自然に触れる、身近な公園の自然の魅力を再発見するなど、多くの原体験を提供するプログラムとなりました。

	5月24日～25日	6月15日	6月29日	7月27日	10月19日	11月16日	12月20日	12月21日	1月25日	2月7日～8日	合計
タイトル	家族で春のビオトープお泊り会	自然素材で鳥の巣バスケットを作ろう	ガマの葉でティッシュケースを作ろう	探検！ため池ポートクルーズ	どろんこバス掘り体験	身近な植物でハンカチを染めよう	ビオトープ講座「ヘドロを出さない水辺の管理」	手作りキャンダルナイト	鳥の足型マグネット作り	ビオトープ公園冬のお泊り会	
回答者人数	16	10	16	24	20	17	9	18	4	19	153
当公園のイベント参加回数											
はじめて	12	4	10	9	18	12	1	7	0	8	81
2回目	0	0	1	10	0	4	2	0	1	1	19
3回以上	4	6	5	5	1	1	6	11	3	10	52
無回答	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
イベントを知った理由(複数回答可)											
あだち広報	11	1	10	8	16	4	0	8	0	1	59
ニュースレター、ポスター・ちらし	2	6	4	7	1	5	0	3	4	11	43
スタッフから	2	0	0	0	0	1	0	2	0	0	5
友達・家族に誘われて	3	1	1	7	2	6	0	2	0	5	27
公園ホームページ	0	1	0	2	1	0	0	3	0	1	8
その他	0	2	2	0	0	1	9	0	0	1	15
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
イベントの満足度											
とてもよかった	14	10	14	21	16	15	6	17	4	16	133
よかった	2	0	2	3	4	2	3	1	0	3	20
あまりよくなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
よくなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



イベントに参加したみなさまへ

よりよいイベントづくりのため、アンケートにご協力ください。

1. 乗袋ビオトープ公園のイベントに参加したことはありますか？ (あてはまるものに○)

今回ははじめて 2回目 3回以上

2. このイベントを何で知りましたか？ (あてはまるものに○)

- あだち広報
- 公園ホームページ
- 友達・家族にさそわれて
- その他 ()
- ニュースレター、ポスター
- 解説員 (スタッフ) から
- 足立区Facebook

3. 今日のイベントはいかがでしたか？

とてもよかった よかった あまりよくなかった よくなかった

4. 今回のイベントで楽しかったこと、発見したことを教えてください。

5. 今後やってみたいイベント、企画してほしいことはありますか。

121121作成 ご協力ありがとうございました。

発展型イベント参加者アンケートの内容

表-12 発展型プログラムのアンケート自由記述（一部）

「ガマの葉でティッシュケースを作ろう」

- ・ガマの穂になる前の状態をはじめて見ました。刈取りや堆肥にすることなども見せていただけて、とてもよかったです。
- ・編むのが大変でしたが、草でこんな事も出来るのかと、楽しかったです。
- ・ガマがどこに生えているのかがわかった。
- ・ガマの葉がこんなに固く、編むことが出来ることを知りました。
- ・孫と一緒に工作できた事がよかったです。不器用さが出ました。家でじっくり完成させます。ありがとうございました。
- ・色あいがいいけど、時間がたりなかった。
- ・楽しかった。
- ・刈ってすぐ使える訳ではないので、スタッフの方々の苦労に感謝です。思った様に上手くできませんでしたが、思い出の品ができて良かったです。愛用していきます。
- ・編むのが楽しかったです。
- ・たいへんだかったです。
- ・実際にガマを刈ってからの製作で、より楽しく編めた。
- ・ガマの葉を編むのは、予想以上に難しかった。
- ・トンボとガマ。
- ・手の労働は老化現象をストップさせると思いました。
- ・カマで刈りとったこと。

「探検！ため池ボートクルーズ」

- ・子どもと同じ目線から生き物を観察することができてとても楽しかったです。
- ・普段は入れないところや見るができない角度から生き物を観察できてよかった。とくにカルガモがいるところがわかってよかった。
- ・イトトンボが交尾をしていた。色々と生き物を見ることで楽しかった。
- ・チョウトンボを初めて見た。メダカがいっぱいいてビックリ！
- ・水辺にたくさんの生き物がいた。イトトンボがたくさんいた。水の中をもっと見てみたい。トンボのぬけがらみたいなのがあった。
- ・ボートにのれてうれしかった。
- ・ソーセージ（ガマの穂）を発見したこと。
- ・目線をかえて見れたことが良かった。
- ・ガマの穂の部分が夏休みの工作に使いそうだなあと発見しました。
- ・ため池に入れてよかった。
- ・ヤゴが水の上にかんざし。
- ・ボートに乗るのが、日常ではない感じで楽しかった。セルビンで何がとれるか興味があったので楽しかった。トンボがこんなに種数多くいるのに驚いた。
- ・アブラゼミは他のセミがいない所に多くいること。（最近町中に多い）
- ・水辺についてよくわかりました。またみるときのポイントを知りました。ありがとうございます。ボートがまたよかったです！
- ・子どもと話をしながら生き物をさがすこと。

「どろんこハス掘り体験」

- ・親子で根っこを掘る共同作業が楽しかった。
- ・泥にふれあえる機会があまりなかったので楽しかった。
- ・ハスが長くおどろいた。
- ・ザリガニが多く、駆除は難しいだろうと思った。
- ・思っていたよりも泥が気持ち悪かった。
- ・最初は根っこを掘ろうとしても切れてしまうことが多かったが、慣れてくると根をたどって長いまま取る快感にはまった。
- ・食べられない種類のレンコンがあるのをはじめて知った。
- ・ハスの根がとて長く驚いた。
- ・ザリガニやカエルもたくさんとれた。
- ・今日一番長いレンコンが掘れたので嬉しい。
- ・ザリガニもとれて楽しかった。
- ・ハスはもう少し太いと思っていたが、意外と細くて驚いた。
- ・ハスの根が長く地中でつながり合っていることが面白かった。

「身近な植物でハンカチを染めよう」

- ・セイタカアワダチソウが外来だった事、ミョウバンと石灰で出来終わりが全然違ったこと。
- ・外来種だったのかと初めて知りました。家でも出来そうな材料だったので出来ればやってみたくわくわくしました。
- ・セイタカアワダチソウが外来種ということは知っていたけど、染物になるとはビックリ！すごいね！
- ・セイタカアワダチソウで色が染められることをはじめて知った。(同様の意見 2 件)
- ・色染めについて初めて聞くことが多く勉強になった。
- ・セイタカアワダチソウをはじめて知りました。
- ・セイタカアワダチソウがとてもきれいでした。
- ・こんなに短時間で染められるとは思っていなかったのでおどろきました。(同様の意見 2 件)
- ・学校でやった藍染の色が青だったので黄色があるとは知りませんでした。
- ・植物が色々な物になるのを初めて知りました。
- ・植物で色をそめて楽しかった(同様の意見 3 件)

「手作りキャンドルナイト」

- ・キャンドル作りは創作意欲がわいてきた。室内を消灯すると幻想的でとても良かった。クリスマスツリー等演出がすばらしかった。クリスマスミニコンサートはサプライズ？遅刻で参加したのでびっくりしました。スタッフの皆さん、ありがとうございます。遠い所から頑張って参加したかいがありました。感謝します。
- ・初めてのキャンドル作りでしたが、企画(グラスを使ってキャンドルケースを作るなど)が良かったです。とても楽しかった。またやって下さい！
- ・3時間という設定だったので、どういう風になるのかと思っていましたが、とてもとてもよいひとときを過ごすことができました。この時期、気ぜわしい時なのでゆったりとした気分になれて本当によかったです。
- ・全部楽しかった！以前からキャンドルを作ってみたかった。ケース作りも他人の模様を見て、「なるほど、こうやるとステキ」とヒントがもらえました。家でも是非トライしてみたいです。すてきな企画、本当にありがとうございます。
- ・最近息子も大きくなり、一緒に何かを作るということも少なくなっていたので、この時間が全て楽しかったです。家に帰ったら、何層かのキャンドルと一緒に作ってみたいと思います。キャンドルの明かりと演奏、本当にリラックスできる時間だと思いました。
- ・全部良かったです！！
- ・キャンドルは、電気の方が明るいし便利だけど、また違う明るさなどがあり、とてもよいものだったと思った。
- ・廃油できれいなキャンドルが作れる事を初めて知りました。
- ・キャンドルの光がとてもきれいで良かったです。
- ・キャンドルに色をもうちょっとつければ、もっときれいになるということが分かった。
- ・一回キャンドルを作ったことがあるけど、それとは違う楽しみがあった。来年もやってほしい。
- ・キャンドルが簡単に作ることができることに驚きました。家でも作ってみたいと思います。(同様の意見 2 件)
- ・固めるテンブルでろうそくができるってすごい！
- ・グラスにマジックで絵を描くことが楽しかったです。
- ・キャンドルを作ったり、キャンドルの明かりの中でオーケストラを聴いたり、普段体験できないものなので、楽しかったです。
- ・ろうそくをうまく作れてうれしかった。
- ・もの作りの楽しさ

「ピオトープ公園冬のお泊り会」

- ・夜でも生き物がたくさんいるんだなおもった。
- ・工作がとても面白かった。夜にはさみ虫を発見した。
- ・雨の音が聞けて良かった。
- ・みんなでやることによってめんどくさいといつもは言う物に積極的にやることができました。
- ・ザリガニのはさみを見つけました。
- ・ねるとき。
- ・お泊り会は全部楽しい。
- ・ミッキーのやつがかわいかった(ナツミカンの形)。
- ・いろんな生き物がいた。(同様の意見 2 件)
- ・寝袋の中で寝るのが楽しかった。(同様の意見 2 件)
- ・カマキリのたまごを発見した。
- ・さなぎや虫は木や草にあたままっている。
- ・生き物さがし。
- ・夕方とはちがって楽しかった。
- ・みんなといっしょにいられたこと。

⑦ 特別企画展示「巨大なビオトープ！？綾瀬川」開催（7/23～8/31）

今年度の特別企画展示は、ビオトープとしての綾瀬川をテーマに、生き物が暮らす環境やそこで暮らす生き物を展示しました。

昨年度と同様、あやせ川清流館へ至る園路に企画展示の趣旨を説明した大きなパネルを設けたり、入口自動ドアや館内の目立つ位置に案内を出すなど、館内の展示スペースへと誘導する導入を設けました。

綾瀬川全体の地図や水質などの情報を解説したコーナー、河岸帯や水中など綾瀬川の環境とそこに暮らす生き物を解説したコーナー、ビオトープという考え方や当園で行っている区民協働の取り組みを紹介したコーナーなどを館内に設けました。

これらの生き物や解説を見てもらった後、将来の綾瀬川に対する想いをイラストや文字で書いてもらう意見集約コーナーを設けました。「綾瀬川で泳ぎたい」という希望や、ホタルのイラストなど様々な意見が書き込まれていました。

子どもたちは綾瀬川で生き物を見たことがほとんどないようで、ニホンウナギやテナガエビなどの生き物がいることに驚いている様子でした。身近にありながらあまり知られていない綾瀬川について知ってもらい、興味を持ってもらうよい機会となりました。

⑧ 団体対応

当公園では、校外学習をはじめとする学校などの団体の積極的な受け入れを行っています。

今年度の団体対応数は101団体4,329人で、昨年度に比べると団体数は23団体、対応者数は2,266人の減少となりました。対応者数が減少した要因としては、あだち自然体験デーの中止や、大谷田公園梅まつりが悪天候で来場者が少なかったこと、 Deng 熱の影響により野外活動を控える団体があったことなどが考えられます。一方で近隣の保育園や介護施設など、例年対応を行っている団体のリピート率が高く、今年度も例年と同程度の対応を行うことができました。

次年度も積極的に団体対応の受け入れを行っていくために、引き続きホームページにおけるPRの強化などを行っていく方針です。また出張授業プログラム集を充実させるなど、出張授業に関しても重点を置いていく方針です。

出張PRの詳細については「**園外でのPR活動 P.52**」に記載します。

表-13 団体対応の実施状況

月	回数	大人	子ども	計
4月	4	74	17	91
5月	16	381	378	759
6月	8	381	427	808
7月	7	31	62	93
8月	6	42	100	142
9月	9	48	159	207
10月	6	17	161	178
11月	16	333	933	1266
12月	8	33	82	115
1月	8	42	138	180
2月	4	20	121	141
3月	9	178	170	349
計	101	1581	2748	4329
平成25年度	124	2363	4232	6595

	団体数	大人	子供	計
保育園・幼稚園	42	149	1059	1208
小学校(園内対応)	6	32	520	552
小学校(出張授業)	1	6	103	109
中学校	4	2	19	21
高校	0	0	0	0
大学	4	16	0	16
介護施設	15	284	0	284
養護学校	8	50	4	54
自治体	5	68	7	75
活動団体	7	103	18	121
外国	0	0	0	0
出張PR	9	871	1018	1889
計	101	1581	2748	4329

(1) 小学生未満の対応（保育園・幼稚園）

今年度も通年利用として近隣保育園3園による5歳児を対象とした対応を計30回行いました。内容としては、4~9月頃に子どもが関心を持ちやすい昆虫探しを中心に行い、子どもが成長するにつれ徐々に植物や自然環境を題材にしたプログラムを各園に実施しました。また、3園の内1園に関しては4歳児クラスも参加したプログラムを実施し、次年度からの対応を滑らかにできるよう保育園と連携して取り組みました。今後もさらに充実したプログラムを提供していく方針です。

通常の団体対応としても各団体の希望を取り入れたプログラムを実施しました。当公園では毎年リピートして利用していただいている団体が多く、利用者に満足いただけているものと思われます。小さい子どもが安全に自然に触れ合うことのできる地域の貴重な場として、今後も需要があると思われます。引き続き満足度の高い対応を行っていきたいと考えています。

保育園、幼稚園向けプログラムの事例紹介（一部）

「園内の自然探し」

実施日：5月9日（金）

今回の対応では初めて公園に来る子どもが多いため、匂いなど五感を使って公園の自然に触れ合えるよう、ワークシートを使って園内で生き物探しを行いました。発見したものを嬉しそうに教えてくれたり、子ども達同士で教え合ったりなど、楽しそうな姿が印象的でした。季節による公園の変化に気づいてもらえるよう「秋頃にまた利用したい」との要望も聞かれました。

「バッタ調べ」

実施日：7月15日（火）

この時期に見られる代表的な生き物のショウリョウバッタを探して観察しました。最初に草地へ行き、どんなどころにバッタがいるかを考えながら探しました。全員1匹以上ショウリョウバッタを捕獲し、清流館に戻ってからスケッチをしました。「羽根が生えた大人のバッタがみたい」などバッタの成長にも興味を持ってくれた様子でした。

「葉っぱスタンプ」

実施日：11月11日（火）

落ち葉にインクをつけてハガキに模様をつける、葉っぱスタンプを実施しました。まず園内で気に入った形や大きさの葉っぱを集め、その後集めた中から選んだ1枚をスケッチしてもらいました。色や模様もしっかり観察して描いていました。最後に自分で見つけた葉っぱを使って葉っぱスタンプをしてもらいました。用意した紙がすぐうまってしまうぐらい、多くの種類の葉っぱを使って楽しんでいる様子が伺えました。

「ネイチャーゲーム」

実施日：1月7日（水）

「自然素材を使った遊び」をテーマに、園内の自然物を使ってゲームをしました。自然の中に溶け込んだ人工物を探す「カモフラージュゲーム」や、こちらで用意したものと同じ自然物を探してくる「同じもの探し」を実施し、園内の自然を細かく観察する楽しさを伝えることができました。ただゲームを楽しむだけでなく、自分の見つけた自然物の特徴をよく観察する子ども達の姿が伺えました。

(2) 小学校・中学校の利用

今年度の小学校の利用は延べ7回でした。前年度に引き続き、公園近隣の小学校では、1年生による年間4回のプログラムの実施を予定していましたが、デング熱の影響や悪天候のため2回しか実施できませんでした。

またその他の小学校へは、季節の自然を感じるための自然発見ビンゴなどのプログラムを実施しました。

小中学校向けプログラムの事例紹介（一部）

「夏の生きもの探し」

実施日：6月10日（火）

年4回の対応の初回となる今回は、夏の生き物探しを実施しました。はじめに公園内で季節ごとに見られる生き物をスライドで紹介し、その後ワークシートを使って、タンポポの花やテントウムシなど、園内でこの季節ならではの生き物を見つけました。普段からビオトープ公園に遊びに来ている子どもが多い様子でしたが、ワークシート片手に夢中になって生き物を探す様子が印象的でした。

(3) 大学の利用

今年度は延べ4回対応を行いました。前年度に続き、大学内の環境サークルの利用があり、公園の概要やビオトープ管理についての紹介を行いました。また他の都内の大学の授業内での利用もあり、来年度以降も大学と連携して対応していきたいと考えています。

「ビオトープの活用について」

実施日：1月30日（金）

新年度から小学校や幼稚園の教員になる学生を対象に、ビオトープを活用したプログラムの紹介を行いました。まずビオトープという言葉の意味や考え方などの基礎的な知識を伝え、それを踏まえた上で管理の方法などを紹介しました。そして実際に当園で実施しているプログラムを体験してもらい、最後にプログラムについての考え方を説明しました。特に自然体験プログラムに対する関心が高く、実際にやってみようという声が聞かれました。

(4) 特別支援学校、高齢者福祉施設の利用

今年度も近隣の足立特別支援学校や区内の高齢者福祉施設の利用があり、園内やあやせ川清流館の見学をされていました。1回30分程度の館内見学が主ですが、クラフトを実施することもあります。今後も短時間の利用でも楽しんでいただけるよう、館内展示の充実やプログラムの充実を図っていきます。

「野草のしおりづくり」

実施日：5月13日（火）、14日（水）

野草を使ったしおりづくりのプログラムを行いました。足が不自由な方が多かったので、使用する野草は団体のスタッフの方にとってきてもらいましたが、その後のしおりづくりは参加者自身にやっ

てもらいました。日常では自然にふれあう機会もなかなかない様子で、野草の種類や押し花の方法について熱心に解説を聞いている様子が印象的でした。

(5) 自治体、活動団体の利用

今年度は12団体への対応を行いました。毎年利用していただいている自治体のほか、遠方の自治体への対応がありました。また他にもビオトープに関心のある団体の利用が増えています。

「水質調査体験」

実施日：7月24日（木）

浄化施設を中心とした公園紹介と、水質調査体験を実施しました。スライドで公園紹介や浄化施設の紹介をしたあと、野外で河川の観察や浄化施設の見学を行いました。その後、測定器具を用いた水質調査体験を行いました。パックテストの色が変わる様子や、透視度計を覗く体験に、参加者は興味を持っている様子でした。

(6) 小中学校の総合学習等の対応

今年度は出張授業1回、中学校の職場体験2回の対応を行いました。

出張授業については年度当初にプログラム集を作成し、校長会での配布を行いました。申込みは1件に留まりました。

「校内の生き物調べ」（出張授業）

実施日：9月5日（金）

1・2年生を対象に、小学校内の花壇と田んぼで生き物探しを行いました。花壇ではバッタの仲間やテントウムシを見つけ、捕まえた虫を班ごとに虫かごに入れました。田んぼの観察では、小さな網を使いながら水の中の生き物をすくって観察しました。花壇で捕まえた生き物は飼育観察するため、捕まえた環境を再現しながら飼育ができるよう解説員からアドバイスをしました。

「職場体験」

実施日：8月28日（木）、29日（金）

中学2年生を対象に受け入れをしました。1日目には公園の概要を説明し、生き物の飼育体験を行いました。その後解説活動に必要な物品の準備、環境管理としてセイタカアワダチソウの抜きとり、ザリガニ釣りを行いました。2日目は生き物の飼育体験、堆肥の管理、イベント準備を行いました。生徒たちはひとつひとつ真剣に取り組んでいる様子でした。最後の感想では「全部が楽しかった」「将来を考える1つの体験になった」と話していました。

① ビオトープの基本概念

ビオトープとは、BIO（生き物）+TOP（場所・空間）で、「生物群集が生息できるような環境条件を備えた地域」と定義づけられます。

近年失われつつある自然環境を取り戻そうと、都市部や市街地にビオトープが設置されています。自然は人々が手を加えることで多様性が生じ、様々な生き物が生息できる環境を保つことができることから、多くのビオトープ活動は必然的に人の手による管理作業を伴うことが前提となります。

・ 環境の再現、生き物の呼び戻しを目指す。

ビオトープ活動では、安易に生き物を持ち込む（人為的に導入する）のではなく、「以前その場所に存在していた環境を再現し、その場所に生息していた生き物を呼び戻し、それらが定着しやすいように環境の維持管理を行うこと」が原則です。

・ 生態系における生産者の繁栄を目指す。

生態系ピラミッドの頂点に位置する生き物の存続には、下位に位置する生き物の存在が不可欠です。当初から生態系ピラミッド上位の高次消費者の定着を考えるのではなく、生態系ピラミッドの根底に位置する生産者の繁栄を心がける必要があります。そして、さらに、その環境にあった生き物が定着し、豊かな生態系が維持されるには、長い時間と多大な努力が必要です。

・ 外来種問題

「外来種」は「在来種」に対する言葉であり、海外から日本に持ち込まれた種だけを指すものではありません。気候的、地形的に隔てられた他地域の生き物は、外来種と位置付けられます。外来種の持ち込みは、自然状態では起こらない様々な問題を引き起こし、地域生態系のバランスを崩しかねません。そこで、対策として「侵入の予防」「早期発見と対策」「定着している場合は駆除・封じ込め」の検討が望まれます。

② 当公園における環境管理の考え方

当公園は都市公園という性質上、「ビオトープ」であると同時に「公園」であることが求められており、これは環境管理を考える上での重要な要素になります。

環境管理においては、園内を大きく「公園ゾーン」と「ビオトープゾーン」に2分し、図-6のようにゾーニングしています。

公園ゾーンの管理では、公園利用者にとって魅力的かつ安全に利用できる管理を優先する必要があります。区との協議の上「公園ゾーン」という分類を細分化し、「公園ゾーン」「園路ゾーン」「浄化施設北側斜面ゾーン」「外周林ゾーン」としました。

ビオトープゾーンの管理では、多様な生き物の生育、生息に重点を置く必要があり、単一的ではなく多様な環境や植生区分がモザイク状に配置されることが理想的です。そのためビオトープゾーンの中を、さらに7つのゾーン（草地A1、草地A2、草地B、疎林、林地A、林地B、水辺）に分け、それぞれに目標とする自然状態を設定し、環境管理計画案を作成しました。

なお、各ゾーンの役割は完全に割り切るのではなく、ビオトープゾーンであっても公園的配慮を、公園ゾーンであってもビオトープ的配慮を相互に検討し、管理を行いました。

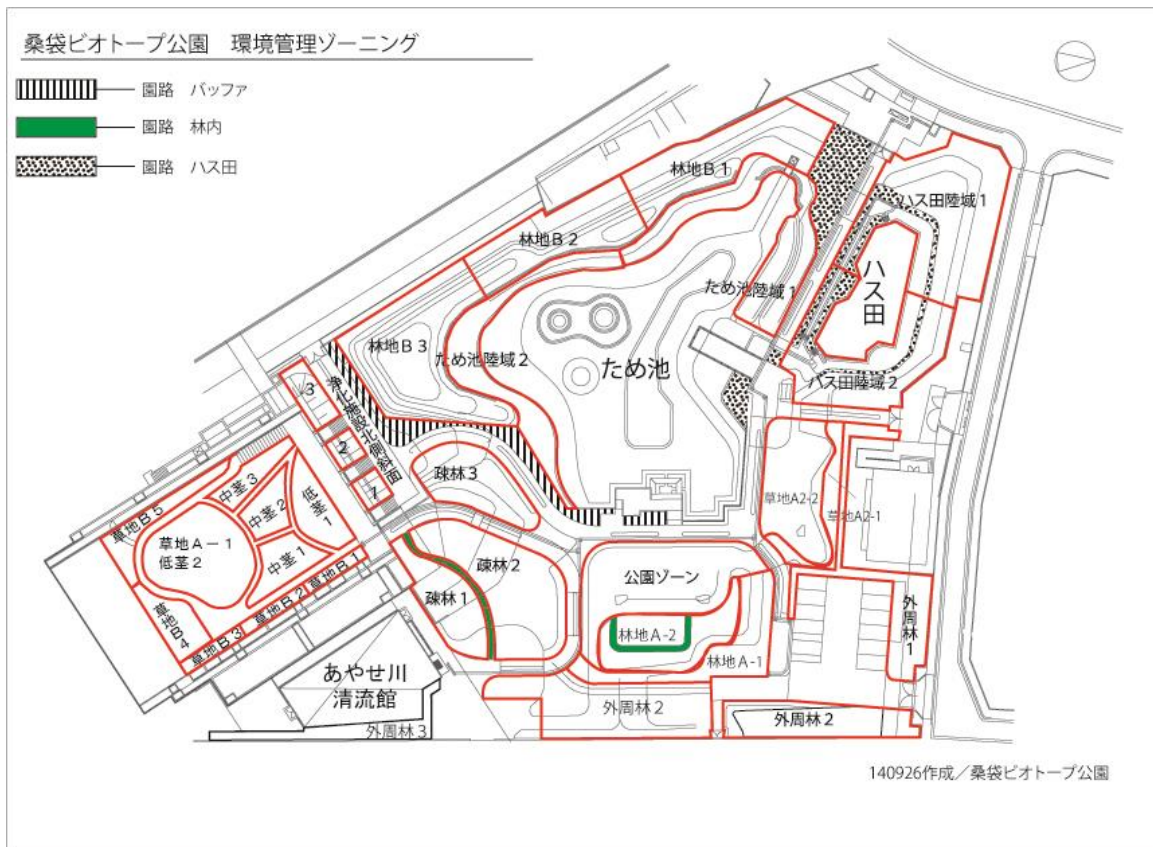


図-6 桑袋ビオトープ公園 環境管理ゾーニング

③ 実際の活動

環境管理作業については、「①ビオトープの基本概念」「②当公園における環境管理の考え方」を踏まえて、平成 25 年度末に作成した「桑袋ビオトープ公園環境管理の見直し」をもとに、区職員と調整を重ねながら、作業を進めました。

当公園のビオトープとしての環境管理は、平成 23 年度に決めた方針を踏襲し、今年度も PDCA サイクル (PLAN→DO→CHECK→ACT) に基づいて行いました。PDCA サイクルを一貫して解説員が行うことで、ビオトープとしての景観を考慮した管理作業を行うことができました。管理作業自体がビオトープ公園の重要な解説素材となっており、ビオレンジャー活動などと連携した活動を行うことができました。また、来園者からの要望・意見を反映させやすく、来園者にとっても快適な空間となるよう配慮した管理を行いました。

管理場所の区分として、園路を園路 (縁)、園路 (バッファ)、園路 (林内)、園路 (ハス田) の 4 つのゾーンに分け、管理作業を行いました。

(1) 植生管理作業

植生管理作業については、ゾーンごとの草刈り作業のスケジュールを立て、今年度初めに「作業行程表」を作成しました。これに基づき、毎月環境管理計画の見直しを行いながら作業を実施しました。9 月以降 Deng 熱の拡大に伴い、当公園でも蚊の滞留場所となるやぶを減らす対処を行いました。具体的にはビオトープとしての管理を優先しているゾーンに設定している水辺等において、イベント実施前に刈り込みを行いました。

水辺の植生管理については、主に公園管理ボランティアの活動として行いました。

また、今年度に行った実際の植生管理作業は表 1-4 の通りです。

※詳細については、「桑袋ビオトープ公園環境管理の見直し」(平成 26 年度版)をご覧ください。

表-14 平成26年度 環境管理作業実施工程表

ゾーン名	管理手法	単位作業日数 (日)	作業実施工程(回)												計	総作業日数 (日)	
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
草地A-1低茎草地	草地A-1低茎1	カマ+芝刈機	0.5		1	1	1		1							4	2.0
	草地A-1低茎2			1	1	2	1	1	1	1					1	9	4.5
	草地A-1園路	芝刈機	0.5	1	2	1	2	1	2	2	1				1	13	6.5
	草地A-1中茎1			1											1	2	2.0
	草地A-1中茎2	刈払機	1.0				1	1							1	3	3.0
	草地A-1中茎3			1					1						1	3	3.0
草地A-2	草地A-2(集会所1)	芝刈機	0.5			1					1				2	1.0	
	草地A-2(集会所2)			1	2	1	3	2	1	1				1	12	6.0	
公園ゾーン	公園ゾーン(IBA-2)	芝刈機	0.5	1	2	1	2	1	2	1				1	11	5.5	
草地B	草地B1(4年サイクル)			1										2	3	3.0	
	草地B2(4年サイクル)	刈払機+ノコギリ	1.0														
	草地B3(4年サイクル)																
	草地B4(4年サイクル)																
	草地B5(年1管理)	刈払機+ノコギリ	1.0											1	1	1.0	
林地A	林地A1	カマ、刈払機	1.0			1			2						3	3.0	
	林地A2			1			3								4	4.0	
林地B	林地B1										1		1		2	2.0	
	林地B2	カマ、刈払機	1.0										1		1	1.0	
	林地B3			1					1				1		3	3.0	
疎林	疎林1	カマ、刈払機	1.0		1		1								2	2.0	
	疎林2				1		1								2	2.0	
	疎林3				1										1	1.0	
水辺(ため池)	水辺(ため池 水域)														13	—	
	水辺(ため池陸域1)	カマ	—	1	2	2	1				2	2	2	1	0	—	
	水辺(ため池陸域2)														0	—	
水辺(ハス田)	水辺(ハス田 水域)	カマ	—					2		2					4	—	
	水辺(ハス田陸域1)				1	1	2		1						5	5.0	
	水辺(ハス田陸域2)	カマ、刈払機	1.0			2	1		1	1					5	5.0	
園路	園路(中央部+縁)	芝刈機(カマ)	1.0		2	1		1	1						5	5.0	
	園路(ハッファ)			1		1		1	1	1					5	5.0	
	園路(林内)	刈払機	0.5		1		1	1		1					4	2.0	
	園路(ハス田)				1	1	1		1	2					6	3.0	
外周林	外周林1			1											1	1.0	
	外周林2(区職員と協議の上実施)	カマ、刈払機	1.0			1		1	1		1	1			5	5.0	
	外周林3(区職員と協議の上実施)														0	—	
浄化施設北側斜面	浄化施設北側斜面1				1		1		1		1				4	4.0	
	浄化施設北側斜面2	カマ	1.0		2			1			1				4	4.0	
	浄化施設北側斜面3				1		1				1				3	3.0	
その他	その他(駐車場横植え込み)	カマ	0.5												0	0.0	
	その他(集会所側門植え込み)														0	0.0	
97.5																	

(2) 外来生物の駆除

平成21年度より、区民協働型事業の一環として、来園者にアメリカザリガニの外来種としての問題を理解していただいたうえで、ザリガニの捕獲に協力してもらっています。

今年度は、年間で2,069匹(前年度4,578匹)のアメリカザリガニの駆除を行うことができました。ザリガニ釣りによる捕獲数は前年度に比べて半数以下に減少しており、ザリガニ釣りによる駆除を継続した結果、釣りで捕獲できる大きさの個体が大幅に減少していることが示唆されます。制度の運用後、年間を通じたデータの記録を開始した平成22年度では13,249匹のザリガニが駆除されており、その減少状況が明確に示されてるといえます。釣れるザリガニの減少に伴い、ザリガニ釣り参加者も3,105人(昨年度3,937人)と、多少の減少傾向にあります。

ウシガエルについては、トラップによる成体の駆除、卵塊の駆除を実施しました。幼体の駆除については、9月にため池において区職員とスタッフにて捕獲作業を実施したことに加え、手網などを用いて適宜実施しました。今年度の捕獲数は成体が133匹(前年度119匹)、幼体が912匹(前年度

38 匹) となりました。成体の捕獲数が減少しておらず、今後も駆除を継続する必要性が示唆されました。幼体については 9 月に捕獲作業を実施したことにより捕獲数が大幅に増加しており、効率よく除去できました。なおウシガエルは非常に機敏で人力で成体を捕獲するのは難しいため、トラップによる捕獲は効率のいい駆除方法であると考えられます。卵塊駆除は現地職員により行われ、目視で卵塊を発見し手網で除去する方法で行われました。卵塊には多い場合で数万個の卵が含まれるため、非常に効率のいい駆除作業であるといえます。

(3) モニタリング調査 (別紙参照)

ビオトープ公園の環境がどのように遷移し、どのような生き物が定着するか、環境管理の効果測定として継続的なモニタリング調査を実施しました。適正な維持管理に生かすと共に、インタープリテーション活動を展開するための貴重な情報として利用することができました。モニタリング調査の詳細については「桑袋ビオトープ公園モニタリング調査報告書 (平成 26 年度)」をご覧ください。

調査地 ①園内 (ゾーン別)、②周辺緑地 (大鷲神社)、③周辺水域 (綾瀬川、毛長川、伝右川)

調査時期 H26 年 4 月～H27 年 3 月

調査内容 生物相調査 ビオトープ活動 before & after 調査、植物相調査、動物相調査、
生物歴調査

相対照度と気温調査

水質調査 透視度・溶存酸素・pH・水温・COD・全窒素・全リンの測定

表ー 1 5 平成 26 年度モニタリング調査回数

調査項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ビオトープ定点写真			1		1		1		1		1		1	6
植物相	木本								1	2				3
	草本		1		1		1		1		1		1	6
	草本植生		1		1		1		1		1		1	6
動物相	鳥類		1		1		1		1		1		1	6
	昆虫		1		1		1		1		1		1	6
	哺乳類	日常業務で適宜実施												-
	魚類													0
	両生類	日常業務で適宜実施												-
	爬虫類	日常業務で適宜実施												-
	その他	日常業務で適宜実施												-
生物歴調査(100選)		日常業務で適宜実施												-
相対照度と気温		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
水質	透視度	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	溶存酸素	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	pH	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	水温	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	COD	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	全窒素				1	1	1		1				1	5
	全リン				1	1	1		1				1	5

周辺緑地	大鷲神社						1							1
周辺水域	綾瀬川、伝右川、毛長川						1							1

(4) 桑袋ビオトープ公園見どころ 100 選

一般来園者が興味をもつ動植物および、環境指標となりうる動植物等 100 種（植物 35 種、動物 62 種、および霜柱・氷・真夏日など自然現象）を選定し、平成 23 年度から週ごとに記録をはじめました。生き物ごとに他の年度と比較することが可能で、窓口対応など解説活動にも役立ててきました。調査結果については前年度と比較して大きな変化はありませんでしたが、公園内の自然の変化を簡単に掌握できる貴重な情報となりました。全種について、写真と簡単な説明をホームページ上で掲載しました。具体的には園内における動物の目撃地点や植物の生育場所などを記載しており、来園者が目当ての生き物を観察しやすいようにしました。

足立区 くわぶくろ 桑袋 自然と共生するまちの実現をめざして ビオトープ公園

[トップページ](#) > [桑袋100選\(昆虫\)](#) 最終更新日 2014年12月16日

桑袋
100選

桑袋ビオトープ公園で見られる代表的な生き物たちのご紹介です。

オオカマキリ

見られる時期: 5月～12月



日当たりの良い草木の葉の上などでよく見られます。昼だけでなく夜も活動しますが、夜はより光を多く取り込むため、目が黒く変色します。

秋に200個程度の卵が入った卵のうを木の枝などに産みます。翌年の春に幼虫が生まれますが、そのうち成虫になれるのは2～3匹程度だと言われています。

ホームページの桑袋 100 選ページの 1 例

5) 区民協働型運営の展開

① 区民協働型運営の概要

近年、自然環境に対する区民の意識が高まり、地域の自然を大切にしたい、失われた自然を取り戻したいというニーズが増えています。こうした社会的ニーズに応えるためには、公園の自然環境の整備と同時に、地域住民に当公園への愛着を感じていただき、その存在意義と適切な環境管理の必要性を理解していただくことが不可欠です。そのためにも区と区民が連携しながら公園の管理運営を行うことが求められます。

これまで桑袋ビオトープ公園では、区民協働型運営の一つとして、区民に園内のビオトープ的管理を行ってもらう公園管理ボランティアを実施してきました。現在では公園管理ボランティア活動は、公園管理を中心にイベントの補助など、大きな役割を担って成果をあげています。

公園管理ボランティアが定着した次の段階として更に多くの区民が公園の運営に関わるために、多様な区民協働形態が必要とされてきました。子どもから高齢者まで、様々な年代、生活スタイルをもつ公園利用者の区民協働を実現するため、区民協働のあり方もそれぞれの生活スタイルに合った多様な取り組みが求められています。

これらを受け、今年度は公園管理ボランティア活動を軸に、修了後の活動となる「ビオトープ公園サポーター制度」、「提案型ボランティア制度」を展開しました。そして新規の区民協働型事業として、「野外解説ボランティア」の立ち上げと運営を行いました。また、子ども向けの「ビオトープ公園ジュニアレンジャー活動」、ザリガニ釣りなどの「飛び込み型環境管理ボランティア」を実施しました。

② 公園管理ボランティアの活動とその成果

平成 17 年度 12 月より開始した区民協働型運営の中心となる活動です。公園管理ボランティアは、多様な生物の生息空間を創出するため、特に水辺の環境整備を中心に活動しています。年間の活動計画は、ボランティア自身で立てた上で足立区と調整し、決定しています。公園管理ボランティアの参加には条件があり、公園管理ボランティアの趣旨を十分に理解した上で同意書を取り交わし、2 年間の養成講座 (STEP1、STEP2) を受講した後に、3 年間の公園管理の実践期間 (STEP3) に移行します。

今年度は 3 期生が 5 年目で修了年、4 期生が活動期間の 1 年目となりました。そして新たに 5 期生が講座期間の 1 年目となり、計 18 名の方が活動を行いました。

STEP 1 (1年目)	26年度の5期生のステップ
〈知る〉 生き物に触れ、親しむ→環境を知る 公園管理上必要な基礎データの収集方法（モニタリング調査）について学ぶ。	
STEP 2 (2年目)	
〈考える〉 生き物と人と環境について考える・把握する 調査結果を基に、公園管理の考え方、管理計画について学ぶ。	
STEP 3 (3年目から5年目まで)	26年度の3、4期生のステップ
〈実行する〉 生き物との共生を実践する 実際に公園管理をする。	

図ー7 公園管理ボランティア事業のプログラム

表ー16 公園管理ボランティア登録者内訳

期生	男	女	計	備考
3期	7	0	7	うち区内在住者 5名
4期	6	1	7	うち区内在住者 6名
5期	3	1	4	うち区内在住者 3名
計	16	2	18	

(1) 3期生の活動とその成果（活動5年目）

3期生は今年度で活動開始から5年目、実践期間3年目となりました。

今年度は公園管理ボランティアとして活動する最後の年度となるため、4期生に技術やノウハウを伝えることを心がけながら活動を行いました。

年間の活動としては、これまで継続して行ってきた、ため池やハス田周辺の水辺の環境管理活動を中心に行いました。10月には「どろんこハス掘り体験」のイベント補助として参加をしました。

(2) 4期生の活動とその成果（活動3年目）

4期生は今年度で活動開始から3年目、実践期間1年目となりました。

3期生が活動5年目という事もあり、3期生から技術を学びつつ、4期生なりに活動をより良く行うことができる方法を模索して活動を行いました。

年間の活動としては3期生と同じく、これまで継続して行ってきた、ため池やハス田周辺の水辺の環境管理活動を中心に行いました。10月には「どろんこハス掘り体験」のイベント補助として参加をしました。

・水辺の環境管理作業

今年度の5月から7月にかけてはカキツバタやミソハギ・ハンゲシヨウ周囲に繁茂したガマやウキヤガラ刈り取りなど、公園の見どころとなる植物の生育を考えた作業を行いました。8月にはオオガハスの遺伝子保護のための花托の刈り取り、開放水面を作るためのハスの刈り取りを行いました。

9月は Dengue 熱流行で活動は見送り、10月から活動再開をしました。11月以降は木の剪定やガマやウキヤガラなどの草刈り作業を行いました。

今年度は作業の際に出る副産物も多く、出来上がった堆肥の袋詰め作業を4回行いました。

次年度は今年度の作業をベースに、堆肥の袋詰め作業を適度に入れ込んだ作業計画を作成し、実施していきます。

・植物の定点撮影

今年度は植物の定点撮影を第2週に行いました。撮影対象はハス田とアサザとし、季節や作業を行う事で変わる植物の様子と景観を記録しました。

(3) 5期生の活動とその成果（活動1年目）

4月に4回実施した説明会に5名が参加され、そのうち4名が活動意思を表明し、活動を行いました。参加者の特徴としては、区内在住者だけではなく区外からの参加者もいること、高齢者だけではなく、20代の若い世代の参加者もいることが挙げられます。

活動1年目となる今年度の講座では、ビオトープの全体像や、活動をともに行う人間関係の重要性、自然の観察方法などを中心に学びました。講座への出席率がとても高く、次年度以降に向けても意欲的な態度が見られます。次年度は「自ら考えて計画を立てること」をテーマにした学習を進める予定です。

表-17 公園管理ボランティア3・4期生参加状況

実施日	テーマ	3期参加者	4期参加者	計
4月5日	堆肥の袋詰め	1	—	1
4月12日	調整会準備、ガマの刈り取り	4	6	10
4月19日	ボランティア調整会、堆肥の切り返し	5	—	5
5月14日	カキツバタ周囲の刈り取り	4	6	10
5月17日	アサザ周囲の刈り取り	5	6	11
6月14日	ミソハギとハンゲシヨウ周囲の刈り取り	5	6	11
6月21日	アサザ移植、アオミドロ除去	4	5	9
7月5日	他施設見学会:水元公園	2	2	4
7月12日	アサザ周囲の掘り下げ	4	5	9
7月19日	ガマの穂の刈り取り	5	4	9
8月9日	ハスの花托取り	4	6	10
8月16日	ハスの刈り取り	2	6	8
8月23日	堆肥の袋詰め	1	—	1
9月14日	Dengue 熱の影響で中止	—	—	0
9月20日	Dengue 熱の影響で中止	—	—	0
10月11日	ハスの刈り取り	4	4	8
10月19日	「どろんこハス掘体験」補助	4	5	9
11月8日	他施設見学会:井の頭公園	1	4	5
11月15日	浮島の管理、堆肥の切り返し	4	5	9
12月14日	ヤナギの剪定、ミソハギ周囲の刈り取り	4	5	9
12月20日	倉庫の片づけ、ビオトープ講座	4	4	8
1月10日	新年懇親会	4	4	8
1月17日	ウキヤガラの刈り取り	5	5	10
2月14日	平成26年度振り返り	5	6	11
2月21日	平成27年度計画作成	4	6	10
3月14日	平成27年度計画作成、堆肥の袋詰め	2	4	6
3月21日	公園管理ボランティア3期生修了式	4	5	9
計23回		91	109	200

表-18 公園管理ボランティア5期生参加状況

実施日	テーマ	参加者
4月12日	ボランティア説明会	2
4月12日	ボランティア説明会	1
4月16日	ボランティア説明会	1
4月20日	ボランティア説明会	1
5月10日	講座「ビオトープ公園の観察」	4
6月14日	講座「身近な水辺の生きものの観察」	4
7月12日	講座「身近な昆虫の観察」	3
9月13日	講座「水辺の環境管理手法」	3
10月11日	講座「身近な植物観察」	3
11月8日	講座「人間関係トレーニング」	3
12月13日	講座「身近な野鳥の観察」	4
1月10日	新年懇親会	2
2月14日	講座「身近な土の生きものの観察」	3
3月14日	講座「一年間のふりかえり」	4
計14回		34

③ 桑袋ビオトープ公園ジュニアレンジャー

(1) ビオレンジャー活動について

桑袋ビオトープ公園ジュニアレンジャー（以下ビオレンジャー）は、登録した子どもにスタンプカードを作成し、体系的な自然体験プログラムとなっているレンジャー活動を行うごとにスタンプがたまっていく仕組みです。レンジャーにはレベルが設定されており、一定個数スタンプがたまると、記念品をもらえると共に、レンジャーレベルをアップさせるためのテストを受けることができます。これにより、公園の事業に対する子どもの参加意欲を高めるとともに、公園利用時のモラルを育成することができました。

前年度に引き続き団体利用で来園した小学生には、ビオレンジャー候補生チケットを配布し、次回来園時にビオレンジャーに登録するとスタンプが1個もらえる仕組みを実施しました。

今年度はビオレンジャー登録者数が947人になり、前年度と比較して114人増加しました。しかし、今年度は新規で最高レベルのプラチナレンジャーになる参加者はおらず、また、前年度以前に合格したプラチナレンジャーの活動もあまり行われませんでした。次年度は新規通常プログラムの作成と、プラチナレンジャーの興味を引出す働きかけをすることでプラチナレンジャー活動の活性化を目指します。

表-19 レンジャー登録者数

レベル	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	昨年比
グリーン	405	574	652	765	861	96増
シルバー	16	35	52	50	63	13増
ゴールド	2	2	6	12	17	5増
プラチナ	2	3	4	6	6	0
小計	425	614	714	833	947	114増
候補生				686	1144	458増
総計	425	614	714	1519	2091	572増

表-20 レンジャー活動一覧

	活動タイトル	活動内容
自然 しらべ	シジュウカラの巣箱しらべ	園内に設置しているシジュウカラの巣箱の使用状況を調査する。
	冬の生きものしらべ	園内で見られる冬越しの生き物を調査し、館内展示に反映する。
	アメリカザリガニしらべ	アメリカザリガニを採取し、オス・メスの匹数を調査する。
	ためいけのとりしらべ	ため池に来る冬鳥の種類、数をカウントし、記録する。
	セミのぬけがら調査	園内のセミの抜け殻を見つけ、種類と数のカウントをする。
	ビオトープ公園野草しらべ	園内に咲いている野草の花を記録し、館内展示に反映する。
	ショウリョウバッタしらべ	ショウリョウバッタを採取し、大きさを測定し、館内展示に反映する。
解説員 の仕事 体験	ヒラタケの水やり体験	サンクチュアリ内で生育しているシイタケのほだ木に散水をする。
	水槽のそうじ体験	清流館内の生体展示用水槽を清掃する。
	パンフレット整理体験	館内で配布しているニュースレター等の配布物を整理する。
	クラフト道具整理体験	色鉛筆など、館内のクラフトで使用する道具の整理を行う。
	クラフト素材集め体験	プログラム等で利用するクラフトの材料となる木の実などを採集する。

(2) 定例活動について

今年度はバイオレンジャーの定例活動として、達人レンジャー活動を実施しました。達人レンジャー活動とは、グリーンレンジャー卒業試験に合格したシルバーレンジャー以上のバイオレンジャーのみが参加できる活動です。

今年度は4月～3月までの12回にわたって「生き物がもっとすみやすい場所づくり」をテーマに、ため池のかいぼり参加を目指した活動や園内のエコスタック作成などの活動を行いました。しかし、参加者数は毎回多いものとは言えず、バイオレンジャーの中でこの活動が定着していない様子が見られました。

次年度は定例活動は休止し、通常活動で高レベルレンジャーが活躍できる仕組みを検討していきます。

表-21 達人レンジャー活動一覧

実施日	26年度活動内容	参加者数
4月6日	いごこちのいい場所さがし	2
5月4日	水辺の草刈り大作戦	0
6月1日	水辺のガサガサ生きものしらべ	2
7月6日	なぜなにヘドロ?! 大実験	2
8月3日	かいぼり作戦会議	1
8月9日	かいぼり出動リハーサル	1
10月5日	草だまりの生きもの調査	5
11月2日	エコスタックのお手入れ	2
12月7日	オリジナルいきものすみかづくり①	3
1月11日	オリジナルいきものすみかづくり②	0
2月1日	鳥の巣箱をつくろう	6
3月1日	1年のふりかえり	3
実施 10回	計	27
平成25年度		
10回	計	25

④ 野外解説ボランティアの活動とその成果

今年度から新規で実施した区民協働型事業で、自然の遊び屋台での自然体験プログラムを実施してもらいました。本活動の特色は、これまでの区民協働型事業の多くが園内の環境管理に関わる活動だったのに対し、公園運営に関わる内容であることです。

公園利用者と直接関わる活動内容であるため、本活動の参加者の募集は、当公園でのボランティア活動経験者、自然観察リーダー登録者のいずれかに該当する人のみを対象に行いました。その結果、当公園でのボランティア経験者5名、自然観察リーダー2名の計7名の応募がありました。

1年目となる今年度の活動では、5回の講座と25回の自然の遊び屋台でのプログラムを実施しました。その他にも実施するプログラムについて解説員と打ち合わせる、プログラムの検討を8回行いました。

実施するプログラムについては、配布した「野外解説ボランティアプログラム集」から選んで実施する形を基本としました。ボランティアがプログラム実施になれてくると、プログラム集にとらわれずオリジナルのプログラムを考案し実施するようになりました。ボランティアがオリジナルのプログラムを実施する際には、必ず事前に解説計画書を作成し解説員がその内容を確認するようにしました。

次年度も本活動を継続し、ボランティアのスキルアップと多彩なプログラムの実施を図ります。

表-22 野外解説ボランティア活動実績

月日	曜日	天気	実施したプログラム	活動人数	月日	曜日	天気	実施したプログラム	活動人数
4月13日	日	晴れ	野外解説ボランティア説明会	6	10月13日	月祝	雨	屋台「葉っぱのこすりだし」	2
4月23日	水	晴れ	野外解説ボランティア説明会	1	10月26日	日	曇り	屋台「自然発見ビンゴ」	3
5月18日	日	晴れ	講座「自然解説の基礎的手法」	7	11月2日	日	曇り	屋台「葉っぱで貼り絵」	2
6月8日	日	雨	講座「自然解説の発展的手法」	7	11月3日	月祝	晴れ	屋台「落ち葉アート」	3
6月22日	日	雨	講座「自然体験プログラム実習」	7	11月24日	月祝	晴れ	屋台「土の中の生きもの観察」	2
7月13日	日	曇り	屋台「むしむしビンゴ」	5				プログラム検討	1
7月21日	月祝	晴れ	屋台「バッタ大調査」	7	11月30日	日	晴れ	屋台「葉っぱ探し」	2
8月3日	日	晴れ	屋台「自然発見ビンゴ」	2	12月7日	日	晴れ	屋台「ため池ミニ水族館」	2
8月24日	日	晴れ	屋台「生きものスケッチ」	4	12月14日	日	晴れ	屋台「エノコログサの観察」	2
9月5日	金	晴れ	プログラム検討	1	12月23日	火祝	晴れ	屋台「季節の自然クイズラリー」	2
9月7日	日	雨	屋台「この木なんの木」	2	1月10日	土	晴れ	ボランティア新年懇親会	2
9月15日	月祝	曇り	屋台「草花めぐりえ」	3	1月12日	月祝	晴れ	屋台「枯れ枝のクラフト」	2
9月21日	日	晴れ	講座「秋～冬、室内でのプログラム」	6	1月18日	日	晴れ	屋台「ロゼットの観察」	2
9月23日	火祝	晴れ	屋台「生きものタッチプール」	3	2月11日	水祝	晴れ	屋台「春のサインを見つけよう」	2
9月24日	水	雨	プログラム検討	1	2月24日	火	曇り	プログラム検討	1
9月27日	土	晴れ	プログラム検討	1	3月1日	日	雨	屋台「コケの観察とクイズ作り」	2
9月28日	日	晴れ	屋台「落ち葉カード作り」	2	3月15日	日	曇り	屋台「春の花を探そう」	2
10月1日	水祝	雨	屋台「ドングリけんだま作り」	2	3月19日	木	曇り	プログラム検討	1
			プログラム検討	1				講座「一年間のふりかえり」	6
10月5日	日	雨	屋台「ドングリストラップ作り」	1	3月29日	日	晴れ	屋台「ため池の生きもの観察」	2
10月7日	火	晴れ	プログラム検討	1				計	113

⑤ ビオトープ公園サポーター制度

ビオトープ公園サポーター制度は、公園に関わりたい気持ちを持つ公園管理ボランティア修了者が自分の都合に合わせて参加できる活動として行いました。今年度もしょうぶまつりなど、区内で行われる催し物での出張PRで行う公園紹介補助を行いました。生体展示やドングリクラフトの補助などを行いながらビオトープ公園の魅力の発信を行いました。

表ー23 ビオトープ公園サポーター参加状況

実施日	テーマ	参加者
5月31日	地球環境フェア	2
6月1日	地球環境フェア	1
6月7日	しょうぶまつり	1
6月8日	しょうぶまつり	1
11月9日	ふれあいまつり	1
計5回		6
平成25年度		
計4回		6

⑥ 提案型ボランティア制度

提案型ボランティア制度は、公園からの提案ではなく希望者からビオトープ公園の管理、運営に関わる新規の自主的活動を提案できる公園管理ボランティア修了者向けの制度です。今年度も公園管理ボランティア2期生修了者の4名で立ち上げた「にきの会」というグループが継続して活動を行いました。活動内容は前年度と同じサンクチュアリ内の通路整備と、今年度から活動範囲を広げて通路外の実生の抜き取りも行いました。また副産物を利用したエコスタックを作成し、そこで見られた生き物やエコスタックの様子を展示し情報発信を行いました。次年度も「にきの会」の活動は継続しますが、新たに公園管理ボランティア3期生修了者が立ち上げる提案型ボランティアグループも活動を行う予定です。

表ー24 提案型ボランティア「にきの会」参加状況

実施日	テーマ	参加者
4月24日	26年度計画の確認・現場確認	4
5月1日	エコスタック作成	4
5月15日	サンクチュアリ通路の整備	3
6月26日	サンクチュアリ通路の整備	4
7月17日	サンクチュアリ通路の整備	3
8月7日	エコスタックの観察、展示	4
11月6日	エコスタックの観察、展示	3
11月20日	サンクチュアリ通路の整備	3
12月18日	サンクチュアリ通路の整備	3
1月15日	展示物の修繕	2
2月5日	平成27年度活動内容検討	3
2月19日	サンクチュアリ通路の整備	3
2月26日	エコスタックの観察、展示	4
3月19日	サンクチュアリ通路の整備	3
計14回		46
平成25年度		
計13回		41

⑦ 飛び込み型環境管理ボランティア

ザリガニ釣り制度は、園内の水辺で増えすぎた外来種のアメリカザリガニの数を少しでも減らすため、公園利用者の協力を得るための区民協働型事業です。参加希望者には、解説員カウンターで受付をしてもらい、釣りざお、バケツ、活動用の帽子を貸し出します。とれたザリガニは持ち帰らずに、全て解説員に引き渡してもらいます。その後ザリガニは足立区生物園へ搬送し、大型魚のエサとして利用してもらいました。

平成26年度の成果として、通年で3,105人の来園者が参加し、2,069匹が駆除されました。平成22年度以降、アメリカザリガニの捕獲数は毎年減少傾向にあり、ザリガニ釣りによる個体数減少が示唆されています。制度を開始した平成22年度と比較し、年間捕獲数は1/6以下になりました（図-8）。

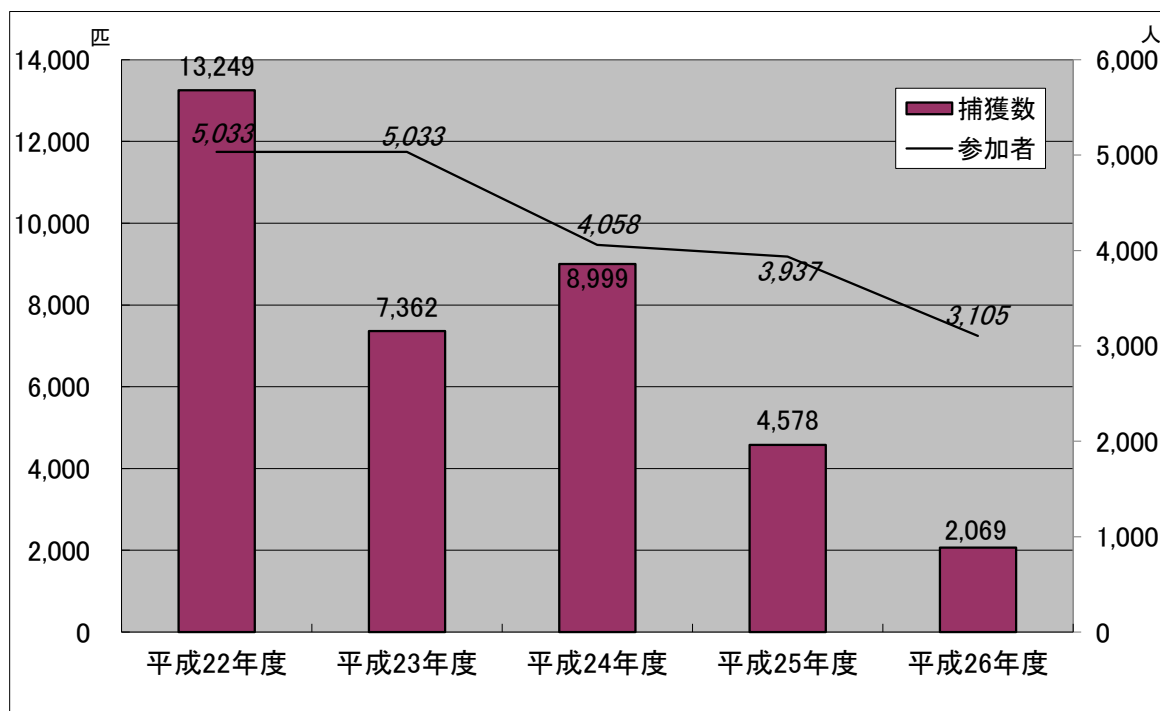


図-8 ザリガニ釣りへの参加者とザリガニ捕獲数の経年変化

6) 広報活動および情報収集

「公園の認知度の低さ」が課題の一つである当公園では、より多くの区民に公園での活動を知っていただき、また来園のきっかけとするために、広報活動が重要となります。

ニュースレターなど印刷物による主に区内への情報発信、園外の様々なイベントでのPR活動、ホームページによる広域への情報発信、新聞・雑誌・TVなどメディアへの掲載につながる広報活動を行いました。

① 新聞・雑誌・TV・HPなどメディアへの掲載

公園の認知度を高めるために、新聞、雑誌、TV、HPなどのメディアで取り上げてもらうことに重点を置いた活動を行いました。地域情報誌やJCOM足立などには、イベント情報告知や取材レポートの掲載をしていただきました。また今年度から足立区公式フェイスブックに、毎月のイベント情報や自然情報を掲載していただきました（表-25）。

今年度は報道広報課への情報発信が手薄になり、昨年度と比べると広域メディアに取り上げられる機会が少なくなっていました。今後はより一層、報道広報課や地域メディアとの連携をはかり、地域・広域メディア共に取り上げていただけるよう、効果的なプレスリリース文の作成などを積極的に行います。

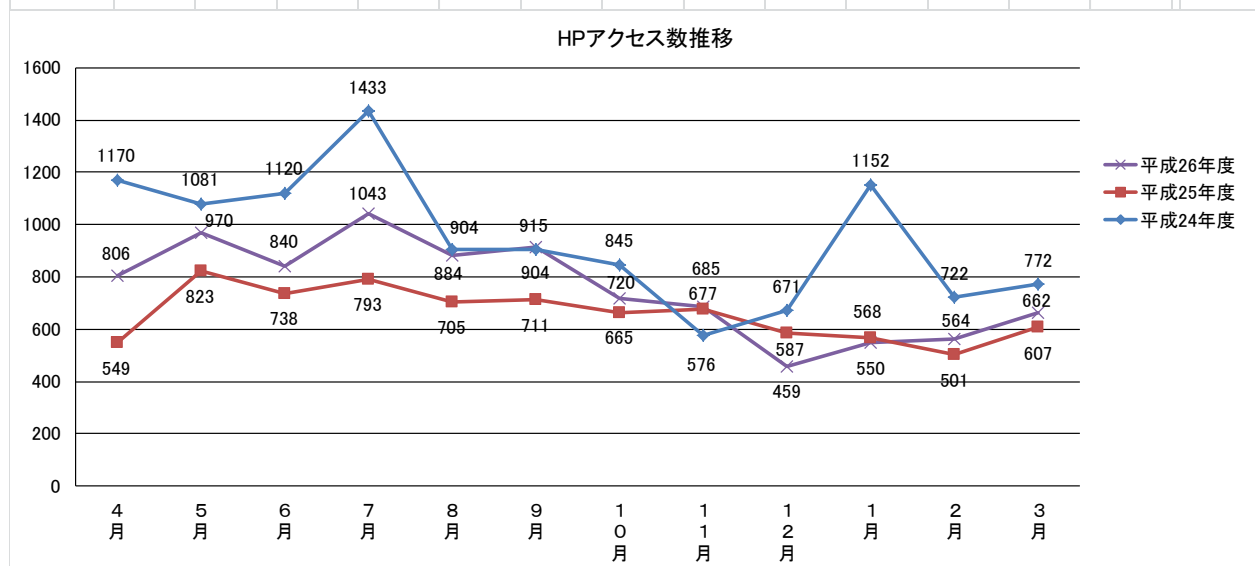
表-25 新聞・雑誌・TVなどへの掲載一覧

報道日	報道機関名	内容
毎月10日、25日	あだち広報	イベント案内
毎月1日	花畑地域学習センター「フレンズ」	イベント案内
毎月	足立区公式フェイスブック ビュー坊のあだちなび	イベント案内
毎月	あだち学び情報館「まなぼー」(HP)	イベント案内
4月11日	タウン情報誌「ぱど」	イベント案内「春の色さがし」
4月18日	子育て情報誌「まみたん」	イベント案内「ビオトープ・オリンピック2014」
4月25日	タウン情報誌「ぱど」	イベント案内「ビオトープ・オリンピック2014」
5月1日	ケーブルテレビ足立会員誌 JCNplus5月号「街暦」	イベント案内「家族で春のビオトープお泊り会」
5月16日	タウン情報誌「ぱど」	イベント案内「自然のあそび屋台」
6月5日	足立朝日 情報スクランブル	イベント案内「ガマの葉でティッシュケースを作ろう」
6月26日	JCOMあだち「デイリー足立」	イベント紹介「ザリガニマスターになろう」
7月24日	JCOMあだち「デイリー足立」	特別企画展示紹介
7月31日	JCOMあだち「デイリー足立」	イベント紹介「探検！ため池ボートクルーズ」
8月23日	読売新聞江東版	イベント案内「ため池のかい掘り体験」
10月20日	JCOMあだち「デイリー足立」	イベント紹介「どろんこハス掘り体験」
11月16日	JCOMあだち「ねずっちい散歩X」	公園紹介
1月27日	朝日新聞 東京マリオン	イベント案内「カモのパズルづくり」
2月27日	るるぶ足立区	公園紹介
3月	エイ出版社「足立本」	公園紹介
3月	北千住駅デジタルサイネージ「ビュー坊テレビ」	公園紹介

② ホームページ

表ー 2 6 HPアクセス数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成26年度	806	970	840	1043	884	915	720	685	459	550	564	662	9098	758.2
平成25年度	549	823	738	793	705	711	665	677	587	568	501	607	7924	660.3
平成24年度	1170	1081	1120	1433	904	904	845	576	671	1152	722	772	11350	945.8



今年度は前年度と比較しHPのアクセス数が約1,000件増加しました。更新頻度を高くし、いつでも新しい情報が得られるように取り組んできた成果が表れたように思われます。

コンテンツとしては、「イベント情報」や「ボランティア活動報告」を毎月更新し、自然の見どころを紹介する「桑袋ナウ」を週1回更新しました。それ以外にも、「トピックス」のコーナーでは、特にその時期の自然のみどころとなるものや、HP閲覧者の来園につながりそうな情報を不定期に掲載しました。また桑袋100選のページを大幅に更新し、閲覧者に、より詳細な園内の自然情報が伝わるように改善しました。

今後もインターネットの普及に伴って、HPの情報の重要性は高まると思われます。同時にスマートフォンでのインターネット利用者の増加などの変化も生まれています。これらの動きに対応すると同時に、HP特有の情報更新の容易さ、迅速性を踏まえたページ作りを検討します。

③ 園外でのPR活動

今年度は、地球環境フェア（足立区区庁舎）、しょうぶまつり（しょうぶ沼公園）、こどもフェスタ（花畑地域学習センター）、ふれあいまつり（花畑地域学習センター）、桜花住区まつり（桜花住区センター）、梅まつり（大谷田公園）に出展しました。ただし、毎年出展していたあだち自然体験デーがデング熱の影響により中止、梅まつりが雨天のため途中で中止となりました。

自然紹介やイベント紹介をするとともに、パンフレットやニュースレターを配布しながら、公園のPR活動を計9回実施しました。

今後も積極的に参加してPR活動を行い、区民の方々に情報発信を行いたいと考えています。

表-27 出張PR先一覧

実施日	出張PR先	場所
5月31日、6月1日	地球環境フェア	足立区区庁舎
6月7日、8日	しょうぶまつり	しょうぶ沼公園
8月3日	子どもフェスタ	花畑地域学習センター
9月28日（デング熱の影響により中止）	あだち自然体験デー	新田
11月1日、2日	ふれあいまつり	花畑地域学習センター
11月9日	桜花住区まつり	桜花住区センター
3月1日（午後は雨天のため中止）	梅まつり	大谷田公園

出展状況の事例紹介（一部）

地球環境フェア（足立区区庁舎）

実施日：5月31日（土）、6月1日（日）

公園サポーターの方々にもお手伝いいただき、ビオトープ公園で見られる生き物や、実施しているイベントなどを紹介しました。今度公園に遊びに行きますといった声や、よい公園ですよといった声が聞かれました。

例年よりも公園を知らないという方が少ない印象を受け、出張PRがビオトープ公園を知ってもらう良い機会となっていることが伺えました。

子どもフェスタ（花畑地域学習センター）

実施日：8月3日（土）

公園で実施しているプログラムの体験として、草花ステンシルを実施しました。園内に自生している植物の一部を用意し、ステンシルシートを使ってハガキに模様をつけてもらいました。自分で作ったハガキを持ち帰れるという点が特に喜ばれました。「公園にはもっといろいろな植物がある」という解説にもつながり、公園の魅力を伝えるよい機会となりました。

④ 区庁舎アトリウムでのポスター掲示

区庁舎アトリウムの入口掲示板にB1サイズのポスターの掲示を行いました。今年度は「家族で春のビオトープお泊り会」「自然素材で鳥の巣バスケットを作ろう」「探検！ため池ボートクルーズ」「特別企画展示 巨大なビオトープ！？綾瀬川」「ビオトープ夜のわくわく生きもの観察会」「ビオトープ講座」「鳥の足型マグネット作り」と、年間で7回掲示しました。

区庁舎アトリウムでのポスター掲示は、多くの区民の方の目に触れるきっかけとなるため、集客に大きな効果があります。今後もこうした公共施設へのポスター掲示が可能か検討していきます。

⑤ 印刷物による情報発信（ニュースレター、ポスター、チラシ）

前年度から引き続き、ニュースレターを発行しイベント情報などを掲載しました。近隣小学校 3 校へは全児童へ配布したほか、区内の全住区センター、地域学習センターなどの各施設、隣接する草加市や八潮市の公共施設へ配布を行いました。

内容はA4 表裏フルカラーで、表面にはイベントの実施情報、裏面には公園の自然紹介などを掲載しました。読みやすい紙面づくりを心掛け、写真やイラストなどを多用しました。「学校で配られたよ」「次号の発行はいつ頃ですか？」など、子どもから大人まで楽しみにしている様子が伺えました。

また発展型イベントを中心にポスター・チラシを作成し、区庁舎アトリウムなどに掲示、配布を行いました。ニュースレターは月 4,500 部を発行しており、より多くの方が目にする場所に掲示、配布することは、大きな広報効果があると考えています。

表－２８ ニュースレター発行回数と部数

号数	発行日	発行部数
NL5月号	2014年4月15日	4,500部
NL6月号	2014年5月14日	4,500部
NL7月号	2014年6月11日	4,500部
NL8月号	2014年7月15日	4,500部
NL9月号	2014年8月11日	4,500部
NL10月号	2014年9月10日	4,500部
NL11月号	2014年10月14日	4,500部
NL12・1月合併号	2014年11月13日	4,500部
NL2月号	2015年1月14日	4,500部
NL3月号	2015年2月12日	4,500部
NL4月号	2015年3月13日	4,500部
計11回		49,500部

表－２９ ニュースレター掲載内容

掲載項目		内容
表	イベント情報	発行月の発展型イベント、導入型イベント、自然のあそび屋台の実施内容を掲載。
	4コママンガ	公園に関係する内容で、楽しそうな雰囲気を出すよう表面に掲載。
裏	公園のみどころ紹介	発行月に見られるであろう、公園のとおきのおきの自然情報を掲載。
	イベントレポート	公園で実施終了したイベントの様子を掲載。
	ボランティア日記	公園管理ボランティアや提案型ボランティアの活動報告を掲載。

⑥ 地域、区内関連施設との連携事業

今年度は前年に続いてアメリカザリガニの駆除について足立区生物園との連携を行いました。具体的には、園内で捕獲したアメリカザリガニを生物園に運び、飼育している生物のエサとして利用してもらいました。

大学への協力として、都内大学の学生に卒業研究に使用するアメリカザリガニの提供を行いました。

また初めての取り組みとして、発展型イベント「手作りキャンドルナイト」内にて、区内で活動している吹奏楽団に演奏をしてもらいました。参加者の感想の中でも「キャンドルの明かりと演奏が良かった」という声も聞かれ、より満足度の高いイベントとなりました。今後もお互いにとって効果の高い事業を行えるよう、地域団体や関連施設との連携を検討していきます。

⑦来館者モニタリング（来館者アンケート結果）

館内に自由記入形式のアンケートを設置し、随時来館者が記入できるようにしました。1年間でアンケートとして回収したものの大半は当公園とあやせ川清流館を評価する声でした。特に多かったのは、楽しかった、という声でした。具体的には「解説員から色々と教えてもらった」「イベントが楽しかった」というような、解説員が常駐していることに対しての好意的な声が多くありました。他にもザリガニが釣れたことに対しての喜びや、クラフト等がいつでもできることに対しての声も多くありました。ご年配の方からは「昔を思い出した」というような声もあり、足立の昔の自然を再現する、という当公園のコンセプトも評価していただけていることが分かりました。これらのことから当公園に関しては、ビオトープという豊かな自然だけに留まらず、自然体験の場として広く認知されてきていることが分かりました。

今後も自由形式のアンケートを継続し、区民のニーズを把握しながらよりよい公園作りにつなげていきます。

○4月回収分

- ・すごく楽しい！最高！
- ・カエルのすごろくが楽しかった。
- ・ひまだった。
- ・解説員がやさしくしてくれてうれしかった。
- ・ザリガニが釣れなかったから悲しかった。でも楽しかった。

○5月回収分

- ・とても楽しい！また来たいと思いました！
- ・生き物いっぱい楽しかった。
- ・いろんな物が作れてよかったです。
- ・しおりを作ってみてよかったなと思いました。うれしくて楽しかったです。
- ・ザリガニ釣りが楽しかった。

○6月回収分

- ・今日はあそび屋台をしました。自然発見シートをしました。楽しかったです。またビオトープに来ます。
- ・楽しかった！住みつきたくなった！虫や自然が好きになった。とても楽しくてまた来たくなった。
- ・虫が好きになりました。ここを大切にしたいと思います。また来ます。そのときはよろしくお願ひします。
- ・とっても楽しかったです。草や植物で（工作が）できたのですごかった。
- ・虫博士になりたいです。
- ・とっても楽しかった。また来たいな。
- ・めっちゃめっちゃ楽しかった！また来ます。
- ・とても楽しかったし虫が好きになった。
- ・虫に興味を持つことができてとても楽しかった。
- ・1日2回も来ちゃった。すごく楽しいです。

- ・楽しかった！
- ・超楽しい！また来ます。
- ・楽しかった！おもしろかった！毎日来ます！
- ・楽しい！
- ・しおり（の作り方を）教えてくれてありがとう！また教えてね。
- ・今日はイベントをしました。「ザリガニマスターになろう」をしました。楽しかったです。
- ・押し花がうまく作れました。
- ・今日はカルガモの赤ちゃんがいました。

○7月回収分

- ・楽しかったです。また来ます。
- ・楽しかった！（同様の意見 14 件）
- ・今日はカルガモを見ました。カルガモが 3 羽いました。楽しかったです。明日もきます。
- ・面白かった。（同様の意見 2 件）
- ・今日は、オオガハスのハーブティーを飲みました。楽しかったです。
- ・ぼくは、ザリガニ釣りの受付時間をもうちょっと長くした方がよいと思います。虫捕りもやってみたらよいと思います。楽しかったです。
- ・楽しい虫捕りもよいと思います。僕も虫捕りがしたいです。
- ・ちょう楽しい！またきます！
- ・楽しかった！またきます。いつもありがとう！
- ・とても良いものがいっぱいすごいです！
- ・とてもよい作品ができました。
- ・来年には自然ふえるかなあ？楽しみ！

○8月回収分

- ・虫とかハスとかいろいろおもしろかった！また来たい！
- ・楽しくなかった。
- ・楽しかったよ。（同様の意見 1 件）
- ・今日はイベントに参加しました。楽しかったです。
- ・いろいろな自然と触れ合うことができました。

○9月回収分

- ・大変懐かしく拝見させていただきました。60 年前に戻った気分です。今度は孫と一緒に来たいと思っています。
- ・マトリョーシカが面白かったです！
- ・めっちゃ楽しかった！
- ・楽しかったです。また来ます。

○10月回収分

- ・今日はドングリで笛を作ったりして楽しかったです。スタッフの人がたくさん話しかけてくれて、また来たいと思いました。ありがとうございました。
- ・とても楽しかったです。
- ・とても楽しかった。
- ・すごくおもしろくて、また来たくなりました。ドングリの笛を作って、やり方もやさしく教えてくれてとてもうれしかったです。自然の空気もすごく気持ちよかったです。ありがとうございました。またいつか来ます！その時も教えてください。面白かった！またくるね！
- ・みんながんばってください！応援しています。
- ・楽しかったし、おもしろかったし、作品を作るのも難しかった。

○11月回収分

- ・はらっぱのところが迷路にしたほうがいい。楽しかった。
- ・おもしろかった。
- ・たのしかった。また来ます。

○1月回収分

- ・子どもが自然と親しみスタッフの皆さんと楽しく交流し勉強させてもらってます。ありがとうございます。
- ・たのしかったです。また来ます。

○2月回収分

- ・楽しかったです。また来ます。
- ・今日はカゴをつくりました。楽しかったです。つかれました。あとは、鬼ごっこをしました。つかれました。楽しかったです。
- ・とても楽しかったです。学校でも何回も行ったことあるけど、なんか変わったな～と思いました。

○3月回収分

- ・楽しかった。
- ・すごく楽しかった。